Canon

Canon

EOS 5D Mark III

使用説明書

J

EOS 5D

Mark III

使用説明書

巻末に「ソフトウェアスタートガイド」を掲載しています。

はじめに

EOS 5D Mark III は、有効画素数約2230万画素・約36×24mmフルサイズCMOSセンサー、DIGIC 5+、視野率約100%ファインダー、高精度・高速61点AF、最高約6コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（14、15ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

メモリーカードについて

本書では、コンパクトフラッシュカードを「CFカード」、SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」、画像を記録するメモリーカードの総称を「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**カードは付属していません。**別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（ボディキャップ付き）

アイカップEg

電池
バッテリーパック
LP-E6
（保護カバー付き）

充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E6

ワイドストラップ
EW-EOS5DMKIII

インターフェースケーブル
IFC-200U

ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

① **カメラ使用説明書**（本書）
② **ポケットガイド**
③ **お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意**

※ アイカップEgをファインダー接眼部に取り付けてください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

ソフトウェア使用説明書について

ソフトウェアの使用説明書は、電子マニュアル（PDF形式）でCD-ROMに収録されています。ソフトウェア使用説明書の参照方法は、396ページをご覧ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈 〉 ：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈 〉 ：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈 〉 ：マルチコントローラーを示しています。
〈(SET)〉 ：設定ボタンを示しています。
4／6／10／16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の応用は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。

* 〈A+〉（シーンインテリジェントオート）モードでは使用できない機能です。

(p.＊＊)：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
：補足説明や補足事項を記載しています。
：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
? ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉、〈LOCK▶〉スイッチが左側（マルチ電子ロック解除）になっていることを前提に説明しています（p.34、47）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USM（一部 EF24-105mm F4L IS USM）レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目 次

はじめに 2

1 撮影前の準備と操作の基本 27

2　かんたん撮影　63

3　AF ／ドライブの設定　69

4　画像に関する設定　115

13 カメラをカスタマイズする 313

14 資料 335

15 ソフトウェアスタートガイド 393

機能目次

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

1

電池（バッテリー）を入れる（p.30）

- 電池の充電方法については 28 ページを参照してください。

2

カードを入れる（p.31）

- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。

3

レンズを取り付ける（p.39）

- 赤い指標に合わせて取り付けます。

4

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.39）

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.34）

モードダイヤルの中央を押しながら、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.64）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.44）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8

撮影する（p.44）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.55）

- 撮影した画像が液晶モニターに2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.244）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.197）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.244）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.277）を参照してください。

各部の名称

ボディキャップ(p.39)

表示パネル（p.21、22）
〈AF-ON〉AFスタートボタン（p.44、70、199、226）
アイカップ（p.185）
〈✱〉AEロックボタン（p.171）
ファインダー接眼部
〈⊞〉AFフレーム選択ボタン（p.72）
〈INFO.〉インフォボタン（p.60、61、200、225、244、336）
電源スイッチ（p.34）
〈MENU〉メニューボタン（p.51）
〈Q〉クイック設定ボタン（p.49）
端子カバー
〈◎〉サブ電子ダイヤル（p.46）
日付/時計機能用電池（p.343）
十字タッチパッド（p.46）
〈SET〉設定ボタン（p.51）
〈MIC〉外部マイク入力端子（p.235）
〈Ω〉ヘッドフォン端子（p.235）
〈ϟ〉シンクロ端子（p.189）
〈A/V OUT /DIGITAL〉映像／音声出力・デジタル端子（p.271 ／ 296、309）
〈HDMI OUT〉HDMIミニ出力端子（p.268）
〈⍝〉リモコン端子（N3タイプ）（p.185）

〈⊖〉撮像面マーク
視度調整つまみ(p.43)
〈 / 〉ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ(p.197 ／ 217)
〈START/STOP〉スタート／ストップボタン(p.198、218)
〈 / 〉クリエイティブフォト／2画面比較再生(2枚表示)／イージーダイレクトボタン(p.129、173、177 ／ 253 ／ 301)
〈RATE〉レーティングボタン(p.255、273)
〈 〉マルチコントローラー(p.47)
ストラップ取り付け部(p.27)
〈 〉インデックス／拡大／縮小ボタン(p.249 ／ 251)
〈 〉再生ボタン(p.244)
カードスロットカバー(p.31)
〈 〉消去ボタン(p.277)
電池室ふた開放レバー(p30)
スピーカー
外光センサー(p.279)
電池室ふた(p.30)
アクセスランプ(p.33)
液晶モニター(p.279)
マルチ電子ロックスイッチ(p.47)
三脚ねじ穴
SDカードスロット(p.31)
CFカードスロット(p.31)
CFカード取り出しボタン(p.33)
MENU
INFO.
RATE
SET
Canon
LOCK▶
CARD OPEN

表示パネル

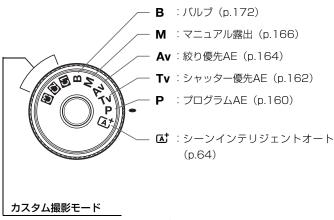
状況に応じた部分のみ表示されます。

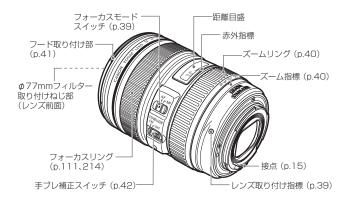
〈[1]〉CFカード装填表示
〈▶〉SDカード選択マーク
〈▶〉CFカード選択マーク
〈[2]〉SDカード装填表示
ISO感度(p.124)
〈AEB〉AEB撮影(p.170)
〈ISO〉ISO表示(p.124)
測光モード(p.167)
評価測光
部分測光
スポット測光
中央部重点平均測光
〈D+〉
高輝度側・階調優先
(p.146)
露出レベル表示
露出補正量(p.169)
AEBレベル(p.170)
ストロボ調光補正量(p.188)
電池チェック(p.35)
記録画質(p.119)
L ラージ
M ミドル
S1 スモール1
S2 スモール2(ファイン)
S3 スモール3(ファイン)
RAW ロウ
M RAW ミドルロウ
S RAW スモールロウ
〈ストロボ調光補正〉ストロボ調光補正
(p.188)

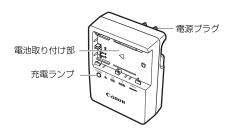
ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。

撮影モード（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）やAFモード、メニュー機能などを、C1、C2、C3に登録して撮影することができます（p.332）。

EF24-105mm F4L IS USM レンズ

バッテリーチャージャー LC-E6

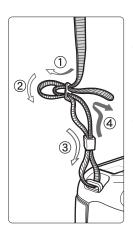
バッテリーパック LP-E6の充電器です（p.28）。

注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

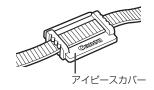
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

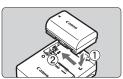
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

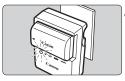
● ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.185）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

● 付属の保護カバーを外します。

2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1回／秒：点滅
50～74%		2回／秒：点滅
75%以上		3回／秒：点滅
充電完了	緑	点灯

● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
● 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

● **購入時、電池はフル充電されていません**

　充電してからお使いください。

● **充電は、使用する当日か前日にする**

　充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

　充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

　電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**

　充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

　電池の劣化度（p.338）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

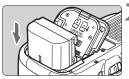
● 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
● バッテリー残容量（p.338）が94%以上のときは、充電は行われません。
● 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E6をカメラに入れます。**このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。**

入れ方

1 ふたを開ける

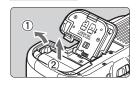
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6以外は使用できません。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

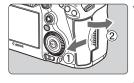
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.29）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

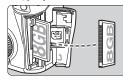
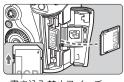
このカメラは、CFカードとSDカードが使用できます。**どちらかのカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**

両方のカードを入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（p.116、118）。

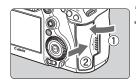
SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチが上側(書き込み／消去可能位置)にセットされていることを確認してください。

入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

CFカード

SDカード

書き込み禁止スイッチ

2 カードを入れる

- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。
- **CFカードは、カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  <u>入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。</u>
- ➡ CFカード取り出しボタンがせり出します。
- **SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**

3 カバーを閉める

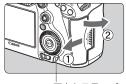
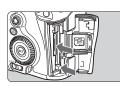
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にすると（p.34）、表示パネルに撮影可能枚数と装填したカードが表示されます。
〈▶〉マークが付いているカードに画像が記録されます。

- Type II のCFカードと、ハードディスクタイプのカードは使用できません。
- このカメラはUHS（Ultra High Speed）スピードクラスには対応していません。ただし、UHS対応のSDHC/SDXCカードを使用することはできます。

- SDHC/SDXCメモリーカードも使用できます。
- Ultra DMA（UDMA）対応のCFカードも使用できます。UDMA対応のCFカードを使用すると、より高速なデータ書き込み処理が行われます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- ［1：カードなしレリーズ］を［しない］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.348）。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

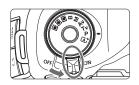
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- ［書き込み中...］と表示されたときは、カバーを閉じてください。

2 カードを取り出す

- CF カードは、取り出しボタンを押し込むとカードが出てきます。
- SD カードは、カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。**
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.154）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（p.53）。正常な状態に戻ることがあります。
- SDカードの接点に、指や金属が触れないように注意してください。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、36ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**

〈**ON**〉：カメラが作動します。
〈**OFF**〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.44）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.44）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、［**2：オートパワーオフ**］で変更することができます（p.55）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（）したときは、もうすぐ電池切れになります。

表示						
残量（%）	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

撮影可能枚数の目安

[約・枚]

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	950	850

- フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E11使用時の撮影可能枚数
  - ・LP-E6×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  - ・単3形アルカリ乾電池使用時（常温+23℃）：約270枚

- 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、199ページを参照してください。
- ［**3：バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます(p.338)。
- バッテリーグリップ BG-E11に単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（［/］は表示されません）。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻の設定が解除されているときは、電源を入れると日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、手順3～6の操作で設定してください。

なお、**撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。**

また、住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時で記録されます。

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

2 ［♆2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して［♆］タブを選びます。
- 〈⚙〉を回して［♆2］タブを選びます。
- 〈◎〉を回して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈SET〉を押します。

3 エリアを設定する

- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◎〉を回して［**エリア設定**］を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回してエリアを選び、〈SET〉を押します。

4 日付/時刻を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［☀OFF］を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して［☀］を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順3で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀OFF］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

6 設定を終了する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

- メニュー機能の設定操作は、51、52ページを参照してください。
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で〈SET〉を押したときに始まります。
- 手順3で、画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。

MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 [🔧2] タブの [言語] を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して [🔧] タブを選びます。
- 〈メイン電子ダイヤル〉を回して [🔧2] タブを選びます。
- 〈サブ電子ダイヤル〉を回して [言語] (上から4番目の項目) を選び、〈SET〉を押します。

3 言語を設定する

- 〈サブ電子ダイヤル〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

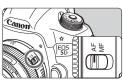
レンズを取り付ける／取り外す

　すべてのEFレンズを使用することができます。なお、**EF-Sレンズは使用できません。**

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

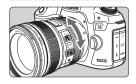
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせの略です。
- 〈**MF**〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると、自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

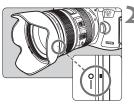
取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

フードの取り付け方

EF24-105mm F4L IS USMに専用フードEW-83Hを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズの前面を保護することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、フードを逆向きに取り付けることもできます。

1 フードの赤いマークと、レンズ先端の赤い指標を合わせる

2 図の位置まで回す

- フードを時計方向に回して確実に取り付けます。

- フードが正しく取り付けられていないと、フードにより画面の周囲がケラレて暗くなることがあります。
- フードの取り付け／取り外しを行うときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF24-105mm F4L IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈**ON**〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

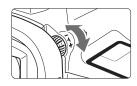
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● バルブ撮影時は、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にしてください。〈**ON**〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
● 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
● EF24-105mm F4L IS USMで流し撮りを行うと、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉のどちらでも働きます。
● 三脚使用時に手ブレ補正スイッチが〈**ON**〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
● 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.185）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズEgの使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、68ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに表示されます（⏱4）。

全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

モードダイヤル

ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す

メイン電子ダイヤル

(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈・WB〉〈AF・DRIVE〉〈ISO・〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AFモード、ISO感度、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈 〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

 （1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.47）でも行うことができます。

◎ サブ電子ダイヤル

(1) ボタンを押したあと〈◎〉を回す

〈◉・WB〉〈AF・DRIVE〉〈ISO・⚡〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.47）でも行うことができます。

✥ 十字タッチパッド

動画撮影中に静かな操作で、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、露出補正の設定、録音レベル、ヘッドフォン音量の調整を行いたいときに使用します（p.236）。［**📷5：動画サイレント設定**］を［**✥有効**］にすると機能します。

〈Q〉ボタンを押したあと、〈◎〉の内側の部分を上/下/左/右に触れる

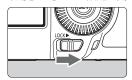
⚙ マルチコントローラー

〈⚙〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定の操作などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます（[▶1：**画像消去**]と[🔧1：**カード初期化**]を除く）。
- メニューやクイック設定の操作では、上下左右方向のみで、斜め方向に動かすことはできません。

LOCK▶ マルチ電子ロック

[📷2：**マルチ電子ロック**]を設定し（p.319）、〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、メイン電子ダイヤルやサブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いて、設定が変わることを防止することができます。

〈LOCK▶〉スイッチ左側：ロック解除
〈LOCK▶〉スイッチ右側：ロック

 〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダーと表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.48）の画面に［**LOCK**］が表示されます。

☼ 表示パネル照明

表示パネルの照明は、〈☼〉ボタンを押すたびに点灯（⏱6）／消灯します。なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

撮影機能の設定状態を表示する

〈**INFO.**〉ボタンを何回か押すと、撮影機能の設定状態が表示されます。

表示された状態でモードダイヤルを回すと、各撮影モードの設定状態を確認することができます（p.337）。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.49）。

もう一度〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示が消えます。

[Q] 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

1 〈[Q]〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

● 〈✣〉で機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容が画面に表示されます。

● 〈◎〉または〈⛭〉を回して設定を変更します。

● A⁺モード

● P/Tv/Av/M/Bモード

3 撮影する

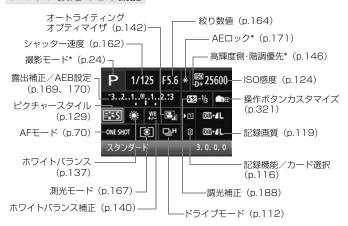
● シャッターボタンを押して撮影します。

➡ 撮影した画像が表示されます。

〈A⁺〉モードでは、記録機能／カード選択、記録画質、ドライブモードのみ設定できます。

クイック設定できる機能

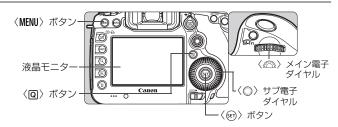
P 1/125 F5.6 * ISO D+ 25600
-3..2..1..0..1..2..+3 ±-1/3
S
ONE SHOT H
スタンダード 3, 0, 0, 0

撮影モード*（p.24）
シャッター速度（p.162）
オートライティングオプティマイザ（p.142）
絞り数値（p.164）
AEロック*（p.171）
高輝度側･階調優先*（p.146）
ISO感度（p.124）
露出補正／AEB設定（p.169、170）
操作ボタンカスタマイズ（p.321）
ピクチャースタイル（p.129）
AFモード（p.70）
記録画質（p.119）
ホワイトバランス（p.137）
記録機能／カード選択（p.116）
測光モード（p.167）
調光補正（p.188）
ホワイトバランス補正（p.140）
ドライブモード（p.112）

 *印の機能は、クイック設定できません。

設定画面について

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。さらに〈INFO.〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈📷≡〉（操作ボタンカスタマイズ／p.321）を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、撮影機能の設定状態に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈Q〉ボタン、〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉を使って行います。

A+モードのメニュー画面

* 〈A+〉モードでは、表示されないタブやメニュー項目があります。

P/Tv/Av/M/Bモードのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈⚙〉を回してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［📷4］タブは、📷（撮影）タブの左から4番目の「■」を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈◎〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈✣〉でメニュー機能の設定を行うこともできます。（［▶1：**画像消去**］［🔧1：**カード初期化**］を除く）
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、348ページを参照してください。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）を行ってください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 カードを選ぶ

- ［1］はCFカード、［2］はSDカードです。
- 〈○〉を回してカードを選び、〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

- ［2］選択時は、物理フォーマットを行うことができます（p.54）。
〈削除〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.371）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、SDカードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、SDカード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、SDカードはそのまま問題なく使用できます。

- 容量が128GBまでのカードはFAT形式、128GBを超えるカードはexFAT形式でフォーマットされます。なお、このカメラで初期化した128GBを超えるカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSの種類やカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、［**しない**］に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 ［オートパワーオフ］を選ぶ

- ［2］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

［**しない**］に設定しても、節電のため30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- ［1］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- ［4］タブの［カメラ設定初期化］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡［カメラ設定初期化］を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能関係

項目	設定
AFモード	ワンショットAF
測距エリア選択モード	1点AF（任意選択）
AFフレーム選択	中央
登録AFフレーム	解除
測光モード	◉（評価測光）
ISO感度	オート
ISO感度設定範囲	下限値：100 上限値：25600
ISOオートの範囲	下限値：100 上限値：12800
ISOオート低速限界	オート

項目	設定
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
多重露出	しない
HDRモード	HDRオフ
ミラーアップ撮影	しない
カスタム機能	そのまま
ストロボ機能設定	そのまま

画像記録関係

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	する／登録レンズ保持
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
記録機能	標準
画像番号	通し番号
ファイル名の設定	カメラ固有
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

AF関係

Case1～6*	Case1／各ケースの設定内容解除
AIサーボ1コマ目レリーズ	バランス重視
サーボAF連続撮影中のレリーズ	バランス重視
USMレンズ電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能
AF補助光の投光	する
ワンショットAF時のレリーズ	ピント優先
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する
任意選択可能なAFフレーム	61点
測距エリア選択モードの限定	全項目選択
測距エリア選択モードの切換	M-Fnボタン
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ
AFフレーム任意選択時の循環	しない（端で突き当たり）
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム（常時表示）
ファインダー情報の照明	自動
AFマイクロアジャストメント	しない

* 初期設定値は、86～89ページを参照してください。

カメラ設定関係

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度
再生時のグリッド	表示しない
拡大倍率設定（約）	2倍
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
動画再生カウント	そのまま
液晶の明るさ	自動
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
INFO. ボタンで表示する内容	全項目選択
ファインダー #	表示しない
RATE ボタンの機能	レーティング
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない

ライブビュー撮影関係

ライブビュー撮影	する
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
露出Simulation	する
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒

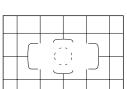
動画撮影関係

AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
動画記録サイズ	1920×1080/IPB
録音	オート
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒
タイムコード	
カウントアップ	そのまま
スタート時間設定	そのまま
動画記録カウント	そのまま
動画再生カウント	そのまま
ドロップフレーム	そのまま
動画サイレント設定	無効
動画撮影ボタン	START/STOP

WFT、GPS使用時の設定については、各機器の使用説明書を参照してください。

グリッドと水準器を表示する

カメラの傾き補正に有効なグリッドと水準器を、ファインダー内と液晶モニターに表示することができます。

ファインダー内にグリッドを表示する

1 ［ファインダー⌗］を選ぶ

- ［🔧2］タブの［ファインダー ⌗］を選び、〈SET〉を押します。

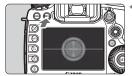
2 ［表示する］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［表示する］を選び、〈SET〉を押します。
- ファインダー内にグリッドが表示されます。

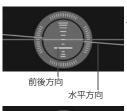
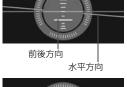
ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内に、AFフレームを利用した水準器を表示することができます。詳しくは、操作ボタンカスタマイズ（p.321）を参照してください。

ライブビュー撮影時、動画撮影時に、液晶モニターにグリッドを表示することができます（p.203、239）。

液晶モニターに水準器を表示する

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。

- 水準器が表示されないときは、[¥3：INFO. ボタンで表示する内容]で、水準器が表示されるように設定します（p.336）。

2 カメラの傾きを確認する

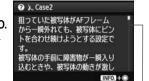
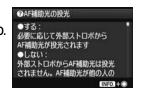
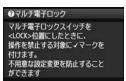
- 水平と前後方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、水準器の誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に、同じ操作で水準器を表示することができます（p.200、225）。なお、動画撮影中に水準器を表示することはできません（水準器を表示した状態で動画撮影を開始すると、水準器が消えます）。

❓ 機能ガイドについて

メニュー画面の下に［INFO. ヘルプ］が表示されているときは、機能ガイド（機能の説明）を表示することができます。〈INFO.〉ボタンを押している間だけ機能ガイドが表示されます。機能ガイドが2ページ以上あるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈INFO.〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。

● ［AF1］タブ［Case2］の例

● ［AF3］タブ［AF補助光の投光］の例

● ［.2］タブ［マルチ電子ロック］の例

2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルの〈A+〉（シーンインテリジェントオート）モードで簡単に撮影する方法を説明しています。

〈A+〉モードでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.346）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

オートライティングオプティマイザ機能について

〈A+〉モードでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能（p.142）が働きます。**P**/**Tv**/**Av**/**B** モードでも初期状態で機能します。

A+ 全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉**はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。**また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に自動でピントを合わせることができます。

1 モードダイヤルを〈A+〉にする

● モードダイヤルの中央を押しながら回します。

エリアAFフレーム

2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

● すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。

● エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。

合焦マーク

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。

➡ AF作動中は〈◣◢〉が表示されます。

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。

➡ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が2秒間表示されます。

〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**〉にして、〈A〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください。

? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

　明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームの中央を合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.44）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。ピントが合わないときは、AF作動表示〈◣◢〉も点滅します。

- **複数のAFフレームが同時に表示される**

　表示されているすべてのAFフレームにピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

　動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（AF作動表示〈◣◢〉は点灯しますが、合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

　なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.67）はできません。

- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

　レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **シャッター速度（数字）が点滅している**

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、別売のEXシリーズスピードライト（p.188）を使用して撮影することをおすすめします。

● **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られます。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影してください。

〈A+〉全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する

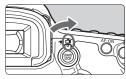
シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈A+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

〈A+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、197ページを参照してください。

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にする

2 液晶モニターに映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

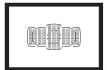
3 ピントを合わせる

- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

3

AF／ドライブの設定

ファインダー内に配置された61点のAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
- 〈A+〉モードでは、AFモード、AFフレーム（測距エリア選択モード）が自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、〈A+〉モードでは、「AIフォーカスAF」に自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

3 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⌒〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないと、ファインダー内の合焦マーク〈●〉とAF作動表示〈◣ ◢〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.110）を参照してください。
- ［1：電子音］を［切］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.72）が、61 点自動選択のときは、初めに任意選択したAFフレームで被写体を捉えます。被写体が任意選択したAFフレームから外れても、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

測距エリアを選択する 応用

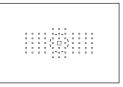
AFを行うためのAFフレーム（測距点）を61点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、AFフレームを選ぶことができます。

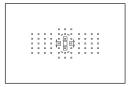
使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターンが異なります。詳しくは、79ページ『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

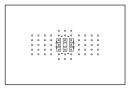
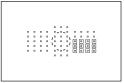
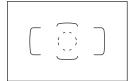
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを6種類の中から選ぶことができます。選択方法は、次ページを参照してください。

スポット1点AF（任意選択）

狭い部分にピントを合わせることができます。

1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。

領域拡大AF（任意選択）

任意に選択した1点〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。

領域拡大AF（任意選択周囲）

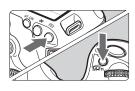
任意に選択した1点〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。

ゾーンAF（ゾーン任意選択）

61点のAFフレームを、9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。

61点自動選択AF

すべてのAF フレームを使ってピント合わせを行います。**〈A+〉モードでは、このモードに自動設定されます。**

測距エリア選択モードを選ぶ

測距エリア選択モードを選ぶ

- 〈⊡〉ボタンを押します。
- ファインダーをのぞきながら、〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ➡〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

- ［**AF4：測距エリア選択モードの限定**］で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（p.99）。
- ［**AF4：測距エリア選択モードの切換**］を［**⊡→メイン電子ダイヤル**］に設定すると、〈⊡〉ボタンを押したあと、〈◎〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（p.100）。

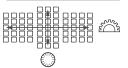
AFフレームを任意選択する

AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。なお、61点自動選択AF時は、AIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。

1 〈⊡〉ボタンを押す

➡ ファインダー内にAFフレームが表示されます。
- 領域拡大AFのときは、隣接した有効になるAFフレームも表示されます。
- ゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。

2 AFフレームを選択する

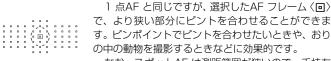
- 〈✣〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈✣〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。
- 〈メイン電子ダイヤル〉で横方向、〈サブ電子ダイヤル〉で縦方向のAFフレームを選択することもできます。
- ゾーンAFのときは、〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、ゾーンが循環して切り換わります。

AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線を検出できる測距点です。詳しくは、78ページを参照してください。

- 〈⊡〉ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次の通りです。
  - ・61点自動選択AF、ゾーンAF（ゾーン任意選択）：**[ ] AF**
  - ・スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）
- ［**AF5：AFフレーム任意選択時の循環**］で、［**しない（端で突き当たり）**］［**する**］を選ぶことができます（p.102）。

測距エリア選択モードの内容 応用

スポット1点AF（任意選択）

1点AFと同じですが、選択したAFフレーム〈⊡〉で、より狭い部分にピントを合わせることができます。ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物を撮影するときなどに効果的です。

なお、スポットAFは測距範囲が狭いので、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。

1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点〈□〉を選択します。

領域拡大AF（任意選択）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレーム〈□〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

ワンショットAFのときは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム〈□〉に加えて、そのAFフレーム〈□〉も表示されます。

領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。「領域拡大AF（任意選択·⁝·）」より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAF、ワンショットAF時の動作は、領域拡大AF（任意選択·⁝·）と同じです（p.75）。

ゾーンAF（ゾーン任意選択）

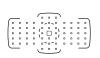
61点のAFフレームを、9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりもピントが合いやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、1点AFや領域拡大AFよりも狙った被写体にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

61点自動選択AF

すべてのAFフレームを使用してピント合わせを行います。〈A+〉モードでは、このモードに自動設定されます。

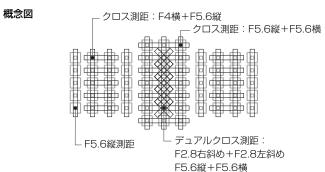
ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択（p.74）したAFフレーム〈□〉でピントを合わせます。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

- 61点自動選択AF、またはゾーンAFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいなど、撮影条件によっては、追従しないことがあります。また、低温下では、追従応答性が遅くなります。
- スポット1点AF設定時は、ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- AF補助光を備えたEOS用外部ストロボ使用時に、AF補助光でピントが合わないときは、測距エリア選択モードを1点AF（任意選択）にして、中央のAFフレームを選んでAFを行ってください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがありますが、これはAFフレーム表示装置（液晶）の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの点滅表示（p.74）が見えにくくなります。

- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定**］に設定すると、測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）を、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.101）。
- ［**AF4：任意選択可能なAFフレーム**］で、任意選択できるAFフレームの数を変更することができます（p.98）。

AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を61点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示す通りです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央部で高精度なAF測距を行うことができます。

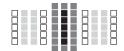
なお、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なります。詳しくは、79～84ページを参照してください。**

	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。ファインダー中央部の縦5点をカバーしています。
	開放絞り数値がF4までのレンズに対応した、高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。
	開放絞り数値がF5.6までのレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。ファインダー中央部の縦3列の測距点をカバーしています。
	開放絞り数値がF5.6までのレンズに対応した測距センサーです。縦配列で61点すべての測距点をカバーしています。横線を検出することができます。

使用レンズとAF測距について

- このカメラは61点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A～Hの8グループに分類されます。使用するレンズがどのグループに属しているか、確認してください。**
- **F～Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。**

- 〈⊞〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■/□」は点灯）。
- 「Extender EF1.4x」「Extender EF2x」はI/II/III型共通です。
- EOS 5D Mark III 以降に発売された、新しいレンズのグループ属性については、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によっては、販売されていないレンズがあります。

Aグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

EF24mm F1.4L USM	EF50mm F1.8 II	EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x
EF24mm F1.4L II USM	EF85mm F1.2L USM	EF200mm F2L IS USM
EF28mm F1.8 USM	EF85mm F1.2L II USM	EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x
EF35mm F1.4L USM	EF85mm F1.8 USM	EF200mm F2.8L USM
EF35mm F2	EF100mm F2 USM	EF200mm F2.8L II USM
EF50mm F1.0L USM	EF135mm F2L USM	EF300mm F2.8L USM
EF50mm F1.2L USM	EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x	EF300mm F2.8L IS USM
EF50mm F1.4 USM	EF135mm F2.8 (Softfocus)	EF300mm F2.8L IS II USM
EF50mm F1.8	EF200mm F1.8L USM	EF400mm F2.8L USM

EF400mm F2.8L II USM	EF16-35mm F2.8L USM	EF28-70mm F2.8L USM
EF400mm F2.8L IS USM	EF16-35mm F2.8L II USM	EF70-200mm F2.8L USM
EF400mm F2.8L IS II USM	EF17-35mm F2.8L USM	EF70-200mm F2.8L IS USM
TS-E45mm F2.8*	EF20-35mm F2.8L	EF70-200mm F2.8L IS II USM
TS-E90mm F2.8*	EF24-70mm F2.8L II USM	EF80-200mm F2.8L

* 手動ピント合わせ、ティルト/シフトなし時

Bグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

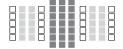
■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■ ■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

EF14mm F2.8L USM	EF20mm F2.8 USM	EF28mm F2.8 IS USM
EF14mm F2.8L II USM	EF24mm F2.8	EF24-70mm F2.8L USM
EF15mm F2.8 Fisheye	EF24mm F2.8 IS USM	

Cグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■ ■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

EF50mm F2.5 Compact Macro	TS-E24mm F3.5L*	EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x
EF100mm F2.8 Macro	TS-E24mm F3.5L II*	EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x
EF100mm F2.8L Macro IS USM	EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	EF8-15mm F4L Fisheye USM
EF300mm F4L USM	EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x	EF17-40mm F4L USM
EF300mm F4L IS USM	EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	EF24-105mm F4L IS USM
EF400mm F4 DO IS USM	EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x	EF28-80mm F2.8-4L USM
EF500mm F4L IS USM	EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x	EF70-210mm F4
EF500mm F4L IS II USM	EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	EF70-200mm F4L USM
EF600mm F4L USM	EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x	EF70-200mm F4L IS USM
EF600mm F4L IS USM	EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x	EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x
EF600mm F4L IS II USM	EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x	EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x
TS-E17mm F4L*	EF135mm F2L USM + Extender EF2x	EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x

* 手動ピント合わせ、ティルト/シフトなし時

Dグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

EF28mm F2.8

Eグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

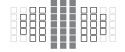
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter	EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	EF28-105mm F3.5-4.5 USM
EF100mm F2.8 Macro USM	EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x	EF28-105mm F3.5-4.5 II USM
EF400mm F5.6L USM	EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x	EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM
EF500mm F4.5L USM	EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	EF28-200mm F3.5-5.6
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x	EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	EF28-200mm F3.5-5.6 USM
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x	EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x	EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x	EF35-105mm F3.5-4.5
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	EF20-35mm F3.5-4.5 USM	EF35-135mm F3.5-4.5
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x	EF24-85mm F3.5-4.5 USM	EF35-135mm F4-5.6 USM
EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	EF28-90mm F4-5.6	EF38-76mm F4.5-5.6
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x	EF28-90mm F4-5.6 USM	EF50-200mm F3.5-4.5
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x	EF28-90mm F4-5.6 II	EF50-200mm F3.5-4.5L
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x	EF28-90mm F4-5.6 II USM	EF55-200mm F4.5-5.6 USM
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	EF28-90mm F4-5.6 III	EF55-200mm F4.5-5.6 II USM

EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x	EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	EF80-200mm F4.5-5.6
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	EF75-300mm F4-5.6	EF90-300mm F4.5-5.6
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	EF75-300mm F4-5.6 USM	EF90-300mm F4.5-5.6 USM
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x	EF75-300mm F4-5.6 II	EF100-200mm F4.5A
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	EF75-300mm F4-5.6 II USM	EF100-300mm F4.5-5.6 USM
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	EF75-300mm F4-5.6 III	EF100-300mm F5.6
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	EF75-300mm F4-5.6 III USM	EF100-300mm F5.6L
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	EF75-300mm F4-5.6 IS USM	EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM

Fグループ

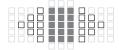
47点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択時と異なります。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

□：使用できません（非表示）。

EF800mm F5.6L IS USM	EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	EF35-80mm F4-5.6 II
EF22-55mm F4-5.6 USM	EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	EF35-80mm F4-5.6 III
EF28-70mm F3.5-4.5	EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	EF35-80mm F4-5.6 PZ
EF28-70mm F3.5-4.5 II	EF28-105mm F4-5.6	EF35-80mm F4-5.6 USM
EF28-80mm F3.5-5.6	EF28-105mm F4-5.6 USM	EF35-350mm F3.5-5.6L USM
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	EF35-70mm F3.5-4.5	EF80-200mm F4.5-5.6 II
EF28-80mm F3.5-5.6 II	EF35-70mm F3.5-4.5A	EF80-200mm F4.5-5.6 USM
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	EF35-80mm F4-5.6	

Gグループ

33点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択時と異なります。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

□：使用できません（非表示）。

EF180mm F3.5L Macro USM	EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x	EF1200mm F5.6L USM

Hグループ

ファインダー中央の1点でAF測距を行うことができます（多点測距はできません）。測距エリア選択モードは、「1点AF（任意選択）」、「スポット1点AF（任意選択）」のみ選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：使用できません（非表示）。

EF35-105mm F4.5-5.6	EF35-105mm F4.5-5.6 USM

開放絞り数値がF5.6よりも暗いレンズのときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。また、ライブビュー撮影、動画撮影時に AFQuick でAFを行うことはできません。

MENU 被写体にあわせてAIサーボ特性を選ぶ 応用

撮影する被写体や、撮影シーンにあわせて、「Case1」～「Case6」を選ぶだけで、被写体やシーンに適したAIサーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。

1 ［AF1］タブを選ぶ

2 ケースを選ぶ

- 〈◎〉を回してケース（マーク）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

各ケースの内容について

「Case1」～「Case6」は、90～92ページで説明する被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性の組み合わせを6種類用意したものです。表の内容から、被写体やシーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例	ページ
Case1		汎用性の高い基本的な設定	動きのある被写体全般	86
Case2		障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	テニス、水泳のバタフライ、フリースタイルスキーなど	86
Case3		急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど	87
Case4		被写体が急加速/急減速するとき	サッカー、モータースポーツ、バスケットボールなど	87
Case5		被写体の上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）	フィギュアスケートなど	88
Case6		被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）	新体操など	89

Case1：汎用性の高い基本的な設定

初期設定

- 被写体追従特性：[0]
- 速度変化に対する追従性：[0]
- 測距点乗り移り特性：[0]

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。

障害物がAFフレームを横切るときや被写体がAFフレームから外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるとき、被写体が上下左右に大きく移動するときは、［Case2］～［Case6］を選んでください。

Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき

初期設定

- 被写体追従特性：[粘る：−1]
- 速度変化に対する追従性：[0]
- 測距点乗り移り特性：[0]

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、[被写体追従特性] を [粘る：−2] に設定すると、改善することがあります (p.90)。

Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき

初期設定

・被写体追従特性：[**俊敏**：+1]
・速度変化に対する追従性：[+1]
・測距点乗り移り特性：[0]

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、[**被写体追従特性**] を [+2] に設定すると、改善することがあります（p.90）。

Case4：被写体が急加速/急減速するとき

初期設定

・被写体追従特性：[0]
・速度変化に対する追従性：[+1]
・測距点乗り移り特性：[0]

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。

急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

瞬時に変化する速さが非常に大きいときは、[**速度変化に対する追従性**] を [+2] に設定すると、改善することがあります（p.91）。

Case5：被写体の上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）

初期設定

・被写体追従特性：[**0**]
・速度変化に対する追従性：[**0**]
・測距点乗り移り特性：[+1]

狙っている被写体の上下左右の動きが大きくても、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えて、ピントを追従させる設定です。上下左右の動きが大きい被写体を撮影するときに有効です。

この設定は、測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、61点自動選択AFのときに機能します。

スポット1点AF（任意選択）、および1点AF（任意選択）時は機能しません。

被写体の上下左右の動きが激しいときは、[**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.92）。

Case6：被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）

初期設定

・被写体追従特性：[0]
・速度変化に対する追従性：[+1]
・測距点乗り移り特性：[+1]

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。また、狙っている被写体の上下左右の動きが大きく、ピントが合わせにくいときは、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えながら、ピントを合わせ続けます。

この設定は、測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択·⁚·）、領域拡大（任意選択周囲)、ゾーンAF（ゾーン任意選択)、61点自動選択AFのときに機能します。

スポット1点AF（任意選択)、および1点AF（任意選択）時は機能しません。

● 瞬時に変化する速さが非常に大きいときは、[**速度変化に対する追従性**] を [+2] に設定すると、改善することがあります（p.91）。
● 被写体の上下左右の動きが激しいときは、[**測距点乗り移り特性**] を [+2] に設定すると、改善することがあります（p.92）。

各特性について

● 被写体追従特性

AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

[0]

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

[粘る：－2／粘る：－1]

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。－1よりも－2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ってしまったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

[俊敏：+2／俊敏：+1]

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にスピーディーに反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

[被写体追従特性] は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7Dで [AIサーボ時の被写体追従敏感度] と呼んでいた機能です。

● 速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

[0]

移動速度がほぼ一定の被写体に適しています。

[+2／+1]

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても､狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

● 測距点乗り移り特性

被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択·⁞·）、領域拡大（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、61点自動選択AFのときに機能します。

［0］

測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

［+2／+1］

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case6」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」、「③測距点乗り移り特性」を、好みに合わせて調整することができます。

1 ケースを選ぶ

- 〈◎〉を回して、調整したいケース（マーク）を選びます。

2 〈RATE〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。

3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して調整したい項目を選び、〈SET〉を押します。
- 被写体追従特性を選んだときは、設定画面が表示されます。

4 調整する

- 〈◎〉を回して内容を設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ 調整した内容が保存されます。
- 初期設定は、［■］の薄いグレーで表示されます。

5 終了する

- 〈RATE〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

- 手順2で〈㎡〉ボタンを押すと、ケースごとに①②③の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニュー（p.331）に①②③を登録することもできます。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

MENU AF機能のカスタマイズ 応用

撮影スタイルや被写体に応じて、［AF2］～［AF5］タブで、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

AF2：AI Servo

AIサーボAF1コマ目レリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

□/◎：バランス重視

ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

□：レリーズ優先

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

◎：ピント優先

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

サーボAF連続撮影中のレリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

：バランス重視

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや低コントラストのときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

：撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。連続撮影速度は低下しません。撮影間隔を一定に保って撮影したいときに有効です。

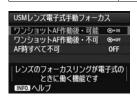
：ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

AF3：One Shot

USMレンズ電子式手動フォーカス

電子式のフォーカスリングを備えた以下のレンズを使用したときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

EF50mm F1.0 L USM	EF300mm F2.8L USM	EF600mm F4L USM
EF85mm F1.2L USM	EF400mm F2.8L USM	EF1200mm F5.6L USM
EF85mm F1.2L II USM	EF400mm F2.8L II USM	EF28-80mm F2.8-4L USM
EF200mm F1.8L USM	EF500mm F4.5L USM	

ON：ワンショットAF作動後・可能

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動ピント合わせができます。

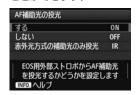
OFF：ワンショットAF作動後・不可

AF動作を行ったあとの、手動ピント合わせを禁止します。

OFF：AF時すべて不可

レンズのフォーカスモードスイッチが［AF］に設定されているときは、手動ピント合わせを禁止します。

AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

ON：する

必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

OFF：しない

外部ストロボからAF補助光は投光されません。AF補助光が他の人の迷惑になるときなどに設定します。

IR：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ発光方式のAF補助光は投光したくない」というときに設定します。

外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定内容に関わらずAF補助光は投光されません。

ワンショットAF時のレリーズ

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

：ピント優先

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

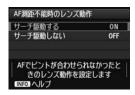
：レリーズ優先

ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

AF4

AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

ON：サーチ駆動する

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

OFF：サーチ駆動しない

AF を開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を停止します。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズ使用時にサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて、次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

任意選択可能なAFフレーム

任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、AFフレーム自動選択時は、設定に関わらず61点でAFが行われます。

：61点

すべてのAF フレームが任意選択できます。

：クロス測距点のみ

クロス測距点のみ任意選択できます。AFフレームの数は、使用するレンズにより異なります。

：15点

主要な15点の任意選択ができます。

：9点

主要な9点の任意選択ができます。

使用レンズがF～Hグループのときは（p.83、84）、任意選択できるAFフレームの数が少なくなります。

- ［61点］以外に設定しても、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）を行うことができます。
- 〈〉ボタンを押したときに、任意選択できないAFフレームは表示されません。

測距エリア選択モードの限定

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

：スポット1点AF（任意選択）

1点AFより狭い部分にピントを合わせることができます。

：1点AF（任意選択）

［任意選択可能なAFフレーム］で設定したAFフレームが1点選択できます。

：領域拡大AF（任意選択）

任意選択したAFフレームと、隣接する上下左右のAFフレームでピントを合わせます。

：領域拡大AF（任意選択周囲）

任意選択したAFフレームと、隣接する周囲のAFフレームでピントを合わせます。

：ゾーンAF（ゾーン任意選択）

61点のAFフレームを9つの測距ゾーンに分けてピントを合わせます。

〔〕：61点自動選択AF

すべてのAFフレームを使用してピントを合わせます。

- ［1点AF（任意選択）］の〈✓〉を外すことはできません。
- 使用レンズが Hグループのときは（p.84）、［スポット1点AF（任意選択）］［1点AF（任意選択）］以外は選択できません。

測距エリア選択モードの切換

測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。

M-Fn：→ M-Fnボタン

〈〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押すたびに測距エリア選択モードが切り換わります。

：→ メイン電子ダイヤル

〈〉ボタンを押したあと、〈〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

［→メイン電子ダイヤル］設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈〉を操作してください。

縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モードと任意選択AFフレームを、別々に設定することができます。

：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

：別々に設定

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。カメラがどの姿勢のときでも右寄りのAFフレームを使いたいときなどに有効です。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAF フレーム（ゾーンAF時はゾーン）を任意選択すると設定されます。カメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

カメラ設定初期化を行うと（p.56）、設定が［**同じ**］になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AF（任意選択）で中央のAFフレームが選択された状態になります。

AF5

AFフレーム任意選択時の循環

AFフレーム任意選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。61点自動選択AF（AIサーボAF時は有効）とゾーンAF以外の測距エリア選択モードで機能します。

：しない（端で突き当たり）

一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

：する

一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

測距時のAFフレーム表示

①AFフレーム選択時、②撮影準備状態（AF測距前）、③AF測距中、④合焦時にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。

：選択AFフレーム（常時表示）

選択したAFフレームが、常時表示されます。

：全AFフレーム（常時表示）

61点すべてのAFフレームが、常時表示されます。

：選択フレーム（測距前/合焦時）

選択したAFフレームが、①②④のときに表示されます。

：選択AFフレーム（合焦時表示）

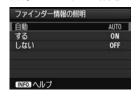
選択したAFフレームが、①④のときに表示されます。

OFF：表示しない

②③④のときは、選択したAFフレームは表示されません。

［選択フレーム（測距前/合焦時）］［選択AFフレーム（合焦時表示）］設定時は、AIサーボAFでピントが合っても、AFフレームは表示されません。

ファインダー情報の照明

ファインダー内に表示されるAFフレームやグリッドを、AF合焦時に赤く照明するかどうかを設定することができます。

AUTO：自動

暗い場所では自動的に赤く照明します。

ON：する

明るさに関わらず、赤く照明します。

OFF：しない

赤い照明は行いません。

ここで設定した内容は、ファインダー内水準器表示（p.59）に対しては反映されません。

〈⊞〉ボタンを押したときは、設定に関わらず赤く照明されます。

AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、104ページの『AFによる合焦位置を微調整する』を参照してください。

MENU AFによる合焦位置を微調整する 応用

ファインダー撮影、またはライブビュー撮影のクイックモードで、AFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、109ページの『AFマイクロアジャストメント共通事項』をあわせてお読みください。

通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

1 ［AFマイクロアジャストメント］を選ぶ

- ［AF5］タブの［AFマイクロアジャストメント］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［全レンズ一律調整］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［全レンズ一律調整］を選びます。

3 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ［全レンズ一律調整］画面が表示されます。

4 調整する

- 〈◎〉を回して調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：近」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：▲」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［**全レンズ一律調整**］を選び〈SET〉を押すと、メニューに戻ります。

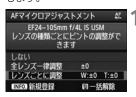
5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.244）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：▲」側、奥側にピントが合っているときは「－：近」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

［**全レンズ一律調整**］のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。

1 ［レンズごとに調整］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**レンズごとに調整**］を選びます。

2 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ［**レンズごとに調整**］画面が表示されます。

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報の確認

- 〈**INFO.**〉ボタンを押します。

➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、［**OK**］を選び手順4に進みます。

- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されます。次の操作で番号を入力します。なお、番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

シリアル番号の入力

- 〈◎〉を回して入力する桁を選び、〈SET〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して数値を入力し、〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら、〈◎〉を回して[OK]を選び、〈SET〉を押します。

レンズのシリアル番号について

- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を、手順3で入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、手順3で任意の番号を入力してください。

- [**レンズごとに調整**]を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ

ズームレンズ

4 調整する

- ズームレンズのときは、〈◎〉を回して、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと紫色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 〈◎〉を回して調整値を設定し、〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：近」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：▲」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、手順4を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- 〈◎〉を回して［**レンズごとに調整**］を選び、〈SET〉を押すと、メニューに戻ります。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.244）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：▲」側、奥側にピントが合っているときは「－：近」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正されます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に［**一括解除**］が表示されているときに、〈〉ボタンを押すと、［**全レンズ一律調整**］［**レンズごとに調整**］で調整した内容をすべて解除することができます。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- カメラ設定初期化を行っても（p.56）、調整した内容は保持されますが、設定は［**しない**］になります。

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- 調整結果を確認するときは、記録画質L で撮影することをおすすめします。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- ライブモード、ライブモード（コントラストAF）のAF調整はできません。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
（例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.67）。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.111）。

ライブビュー撮影時の［**ライブモード**］［**ライブモード**］のAF で、ピントが合いにくい撮影条件については、211ページを参照してください。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

➡ 表示パネルに〈M FOCUS〉が表示されます。

2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

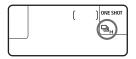
● シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
● 61 点自動選択時は、中央の AF フレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

□：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□H：**高速連続撮影**（最高約6コマ／秒）
□：**低速連続撮影**（最高約3コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

□S：**静音1枚撮影**
作動音が〈□〉よりも静かな1枚撮影です。
□S：**静音連続撮影**（最高約3コマ／秒）
作動音が〈□〉よりも静かな連続撮影です。

⏲：**セルフタイマー：10秒/リモコン撮影**
⏲2：**セルフタイマー：2秒/リモコン撮影**
セルフタイマー撮影については次ページ、リモコン撮影については186ページを参照してください。

- 〈□S〉〈□S〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下することがあります。
- □H：最高約6コマ/秒は、シャッター速度：1/500秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）の条件*で連続撮影したときの最高速度です。連続撮影速度は、シャッター速度や絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用などにより低下することがあります。

  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して選びます。

：10秒後に撮影
2：2秒後に撮影

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください (p.185)。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたい（カメラをぶらせたくない）ときに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.244）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.67）。
- セルフタイマー撮影を開始してから途中で中止するときは、〈AF・DRIVE〉ボタンを押します。

4

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、周辺光量補正、色収差補正など、画像に関係する機能設定について説明しています。

● ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
　* 〈A+〉モードでは使用できない機能です。

MENU 画像を記録・再生するカードを選択する

カメラにCFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば、撮影することができます。カードを1枚だけ入れたときは、116〜118ページの操作は必要ありません。

CFカードとSDカードを入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

カードを2枚入れたときの記録方法の設定

1 [記録機能とカード・フォルダ選択] を選ぶ

- [1] タブの [**記録機能とカード・フォルダ選択**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [記録機能] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**記録機能**] を選び、〈SET〉を押します。

3 記録方法を選ぶ

- 〈◎〉を回して記録方法を選び、〈SET〉を押します。

● **標準**

［**記録・再生**］で選択したカードに画像が記録されます。

● **カード自動切り換え**

［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。なお、自動切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

● **振り分け**

カードごとに記録する記録画質を設定することができます（p.119）。1回の撮影でCFカードとSDカードに、設定した記録画質の画像が記録されます。◢L と RAW、S3 と M RAW など、記録画質を自由に設定して撮影することができます。

● **同一書き込み**

1回の撮影でCFカードとSDカードに同じ画像が記録されます。RAW＋JPEGを選ぶこともできます。

［**振り分け**］設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.121）。

［**振り分け**］［**同一書き込み**］設定時は、CFカードとSDカードに同じ画像番号で記録されます。また、表示パネルには、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード＊がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときは、カードを交換するか、記録機能の設定を［**標準**］または［**カード自動切り換え**］にして、空き容量のあるカードを選ぶと、撮影を行うことができます。

カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

［**記録機能**］を［**標準**］［**カード自動切り換え**］に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。

［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

［標準］［カード自動切り換え］設定時

［記録・再生］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**記録・再生**］を選び、〈SET〉を押します。
  - 1：CF カードに記録、CF カードの画像を再生
  - 2：SDカードに記録、SDカードの画像を再生
- 〈◎〉を回してカードを選び、〈SET〉を押します。

［振り分け］［同一書き込み］設定時

［再生］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**再生**］を選び、〈SET〉を押します。
  - 1：CFカードの画像を再生
  - 2：SDカードの画像を再生
- 〈◎〉を回してカードを選び、〈SET〉を押します。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.122）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［1］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

［標準/カード自動切換え/同一書き込み］設定時

2 記録画質を設定する

- RAWの記録画質は〈〉、JPEGの記録画質は〈〉を回して選びます。
- 画面の数字「**M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（9999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

［振り分け］設定時

- ［1：**記録画質とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、〈〉を回して〈1〉または〈2〉を選び、〈SET〉を押します。
表示された画面で、〈〉を回して記録画質を選び、〈SET〉を押します。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋◢L

S RAW＋◢M

- RAWとJPEGの設定を両方［－］にしたときは、◢Lに設定されます。
- 表示パネルに表示される撮影可能枚数は、1999までです。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	22M	A2以上	7.0	1010	65（16270）
	▟L	22M	A2以上	3.7	1930	1930（30990）
	◢M	9.8M	A3以上	3.8	1860	1860（29800）
	▟M	9.8M	A3以上	2.0	3430	3430（55000）
	◢S1	5.5M	A4以上	2.5	2810	2810（45140）
	▟S1	5.5M	A4以上	1.3	5240	5240（83980）
	S2*1	2.5M	L判程度	1.4	5030	5030（80520）
	S3*2	0.3M	—	0.3	19520	19520（312420）
RAW	RAW	22M	A2以上	27.1	260	13（18）
	M RAW	10M	A3以上	19.1	370	10（11）
	S RAW	5.5M	A4以上	15.1	480	12（15）
RAW+JPEG	RAW ◢L	22M 22M	A2以上 A2以上	27.1+7.0	210	7（7）
	M RAW ◢L	10M 22M	A3以上 A2以上	19.1+7.0	270	7（7）
	S RAW ◢L	5.5M 22M	A4以上 A2以上	15.1+7.0	320	7（7）

*1：S2は、市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。

*2：S3は、電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

- S2、S3は、どちらも◢（ファイン）の画質です。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBのCFカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈⊒H〉高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）モード 7対応、128GBカード使用時の枚数です。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は、同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶1：RAW現像］（p.282）で現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、すべてのRAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行ったあと、その調整を反映させたJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

ワンタッチ記録画質切り換え

操作ボタンカスタマイズ機能で、〈M-Fn〉ボタン、または絞り込みボタンに、記録画質を一時的に切り換える機能を割り当てることができます。〈M-Fn〉ボタン、または絞り込みボタンに［**ワンタッチ記録画質切換**］を割り当てると、記録画質を素早く切り換えて撮影することができます。

詳しくは、『操作ボタンカスタマイズ』（p.321）を参照してください。

［¥1：**記録機能とカード・フォルダ選択**］が［**振り分け**］のときは、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）

ファインダー内の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

- 連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、121ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- UDMA対応のCFカードを使用しても、ファインダー内の連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、121ページの表の(　)内に示した枚数の連続撮影ができます。

ISO：ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。〈A+〉モードでは、ISO感度が自動設定されます（p.125）。

なお、動画撮影時のISO感度については、221、224ページを参照してください。

1 〈ISO・⊠〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉を回します。
- ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.125）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	**撮影シーン** （ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
L、100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～25600、H1、H2	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- ［📷3：**高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定すると、「**L**」（ISO50相当）、ISO100/125/160、「**H1**」（ISO51200相当）、「**H2**」（ISO102400相当）は選択できなくなります（p.146）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長秒時露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。

- H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- ［**ISO 感度設定範囲**］の［**上限値：25600**］設定時に、ISO16000/20000/25600に設定した状態で動画撮影にすると、ISO12800に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。
- ①L（50）、②H1（51200），H2（102400）設定時に動画撮影にすると、ISO 感度が①ISO100、②H（25600）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。

- ［**2：ISO 感度に関する設定**］の［**ISO 感度設定範囲**］で、ISO 感度の設定範囲をISO50相当（L）～ISO102400相当（H2）まで拡張することができます（p.126）。
- 拡張ISO感度（L, H1, H2）を設定したときに、ファインダー内に〈(!)〉を表示することができます（p.318）。

ISOオートについて

ISO 感度の設定が「**A**」（AUTO）のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
A+	ISO100～12800自動設定
P/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～25600*1自動設定
B	ISO400*1固定
ストロボ撮影時	ISO400*1*2*3固定

*1：［**ISOオートの範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］による

*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる

*3：〈A+〉〈**P**〉モードで外部ストロボをバウンスしたときは、ISO400～1600自動設定

MENU ISO感度の範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50）～H1（ISO51200）、上限値はISO100～H2（ISO102400）の範囲で設定することができます。

1 ［ISO感度に関する設定］を選ぶ

- ［2］タブの［ISO 感度に関する設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［ISO感度設定範囲］を選ぶ

- ［ISO感度設定範囲］を選び、〈SET〉を押します。

3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈〉を回して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈〉を回して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

- 〈〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ メニューに戻ります。

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート時に自動設定される感度を、ISO100～25600の範囲で設定することができます。下限値はISO100～12800の範囲、上限値はISO200～25600の範囲で、1段ステップで設定することができます。

1 ［ISOオートの範囲］を選ぶ

- ［ISOオートの範囲］を選び、〈SET〉を押します。

2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

3 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して ISO 感度を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を終了する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ メニューに戻ります。

［下限値］［上限値］は、ISO感度でセイフティシフト（p.317）が行われたときの下限/上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を1/250秒〜1秒の範囲で設定することができます。

この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

1 ［ISOオート低速限界］を選ぶ

- ［**ISO オート低速限界**］を選び、〈SET〉を押します。

ISOオート低速限界
シャッター速度
オート
AUTO　1/250　1/125　1/60
1/30　1/15　1/8　1/4
0"5　1"
INFO. ヘルプ

2 低速限界を設定する

- 〈◎〉を回してシャッター速度を選び、〈SET〉を押します。

➡ メニューに戻ります。

- ［**ISOオートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**ISO オート低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時は、［**ISOオート低速限界**］は機能しません。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

〈A+〉モードでは〈A〉（オート）に自動設定されます。

1 〈 〉ボタンを押す

2 ［ ］を選ぶ

● 〈 〉を回して［ ］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 スタイルを選ぶ

● 〈 〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

［3：ピクチャースタイル］から設定することもできます。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

132ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

モノクロ

白黒写真になります。

JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、[**モノクロ**] 設定時は、表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

[**モノクロ**] 設定時に、ファインダー内に〈(!)〉を表示することができます(p.318)。

ユーザー設定1〜3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.135）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、[**シャープネス**] [**コントラスト**] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている [**シャープネス**] [**コントラスト**] などの設定値を示しています。

記号の意味

記号	意味
◐	シャープネス
◐	コントラスト
♣	色の濃さ
◔	色あい
●	フィルター効果（モノクロ）
⊘	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

　それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、134ページを参照してください。

1 〈 〉ボタンを押す

2 ［ ］を選ぶ

- 〈 〉を回して［ ］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 スタイルを選ぶ

- 〈 〉を回してスタイルを選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

4 項目を選ぶ

- 〈 〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

5 内容を設定する

- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順４で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［シャープネス］と［コントラスト］の他に、［フィルター効果］［調色］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［コントラスト］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［N：なし］［S：セピア］［B：青］［P：紫］［G：緑］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.394）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

---

1 〈 〉ボタンを押す

2 ［ ］を選ぶ

- 〈 〉を回して［ ］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈 〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

4 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

5 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈 〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

6 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

7 内容を設定する

- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.132〜134）を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ ［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

- ［**ユーザー設定＊**］にスタイルがすでに登録されているときは、手順5で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.56）を行うと、［**ユーザー設定＊**］に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、付属のソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した［**ユーザー設定＊**］を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書（p.396）を参照してください。

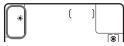
WB: ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

〈A+〉モードでは、〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈⦿・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
蛍	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ使用	自動設定*
▲	マニュアル（p.138）	2000～10000
K	色温度（p.139）	2500～10000

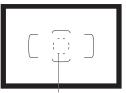
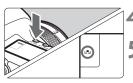
* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影することができます。

［📷2：ホワイトバランス］から設定することもできます。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

スポット測光範囲

1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［2］タブの［MWB 画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニューに戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 〈・WB〉ボタンを押す（6）

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回して、〈〉を選びます。

● 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
● ピクチャースタイルを［モノクロ］に設定して撮影した画像、多重露出画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

● 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
● 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈 〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

● ［2］タブの［ホワイトバランス］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

● 〈 〉を回して［K］を選びます。
● 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
● 設定できる色温度範囲は、約2500〜10000K（100Kステップ）です。

● 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じて WB 補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
● 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

WB ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [**2**] タブの [WB 補正 /BKT 設定] を選び、〈SET〉を押します。

設定例：A2, G1

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

- WB補正時は、表示パネルに〈WB〉が表示されます。
- WB補正時に、ファインダー内に〈(!)〉を表示することができます (p.318)。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈㎜〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケティング時の記録枚数を変更することができます（p.316）。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、[標準] に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

〈A+〉モードでは、[標準] に自動設定されます。

1 [オートライティングオプティマイザ] を選ぶ

● [2] タブの [オートライティングオプティマイザ] を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

● 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

● 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

● [3：高輝度側・階調優先] を [する] に設定すると、オートライティングオプティマイザが [しない] に自動設定され、設定変更ができなくなります。
● 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
● [しない] 以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[しない] に設定してください。
● HDRモード（p.173）、多重露出撮影（p.177）設定時は、オートライティングオプティマイザが自動的に [しない] になります。HDRモードと多重露出撮影を解除すると、元の設定に戻ります。

手順2で〈INFO.〉ボタンを押して [マニュアル露出時はOFF] の〈✓〉を外すと、〈M〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

- ［◘3］タブの［高感度撮影時のノイズ低減］を選び、〈SET〉を押します。

2 レベルを設定する

- 〈◎〉を回して低減レベルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

RAW 画像をカメラで再生すると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなることがあります。ノイズ低減効果の確認は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で行ってください。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。

1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

- ［**3**］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈SET〉を押します。

2 低減内容を設定する

- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

- **［自動］**

  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

- **［する］**

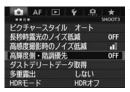
  露光時間１秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- ISO1600以上の感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**する**］設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白飛びを緩和することができます。

1 **［高輝度側・階調優先］を選ぶ**

- ［**3**］タブの［**高輝度側・階調優先**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **［する］を選ぶ**

- 〈◎〉を回して［**する**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18％グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 **撮影する**

- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

- ［**する**］設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.142）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。［**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが元の設定に戻ります。
- ［**する**］設定時は、［**しない**］設定時よりもノイズが若干増えることがあります。

［**する**］設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～25600（動画撮影時は12800）になります。また、ファインダー内と表示パネルに、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

MENU レンズの周辺光量／色収差を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、ともに補正［**する**］に設定されています。

周辺光量補正

1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［1］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- 〈〉を回して［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、149ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。

- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

色収差補正

1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して［**色収差補正**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

2 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

色収差補正を行って撮影したRAW画像を再生すると、補正されていない状態で表示されます。色収差補正の確認は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で行ってください。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正、色収差補正が行われます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書（p.396）を参照してください。

周辺光量補正、色収差補正の共通事項

- 補正［**しない**］に設定して撮影したJPEG画像を、後から補正することはできません。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正の効果は映像に反映されません。

- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダー装着時も補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

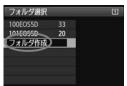
なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 ［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ

- ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［フォルダ作成］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ作成**］を選び、〈SET〉を押します。

4 フォルダを作成する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100EOS5D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.155）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU ファイル名を変更する

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.154）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

ファイル名の登録・変更

1 ［ファイル名の設定］を選ぶ

- ［¥1］タブの［ファイル名の設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［ユーザー設定の変更］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ユーザー設定＊の変更］を選び、〈SET〉を押します。

3 任意の英数字を入力する

- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◎/⚙〉または〈✣〉を操作して □ を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。

4 終了する

● 所定の文字数を入力し、〈MENU〉ボタンを押します。

➡ 登録したファイル名が保存され、手順2の画面に戻ります。

設定内容

5 登録したファイル名を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**ファイル名**］を選び、〈SET〉を押します。

● 〈◎〉を回して登録したファイル名を選び、〈SET〉を押します。

● ユーザー設定2に登録したときは、「(登録した3文字) ***＋画像サイズ」を選びます。

ユーザー設定2について

ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた記録画質（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」＝ ◢L、◢L、RAW　　「***M」＝ ◢M、◢M、M RAW

「***S」＝ ◢S1、◢S1、S RAW　　「***T」＝ S2

「***U」＝ S3

パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像は、拡張子から判別することができます。

「_ 」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

● 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

● ユーザー設定２で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_ 」（アンダーバー）になります。

MENU 画像番号の付け方を設定する

4桁の画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

1 ［画像番号］を選ぶ

- ［1］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

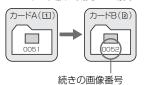
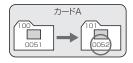
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1→2）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

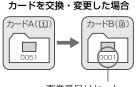
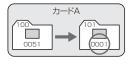
ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が保存されているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が保存されているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合　　**フォルダを作成した場合**

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［4］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。

3 文字を入力する

- 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◎/ダイヤル〉または〈マルチコントローラー〉を操作して □ を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力することができます。
- 〈消去〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。

著作権情報の確認

前ページの手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.394）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

〈A+〉モードでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

● ［2］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

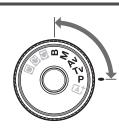
● ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

● 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
● ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.396）を参照してください。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
  * 〈A+〉モードでは使用できない機能です。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が4秒間（4）表示されます。
- 各撮影モードで設定できる機能は、346ページを参照してください。

あらかじめ〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。
＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。（ワンショットAF時）
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

〈A+〉モードでは、失敗を防ぐために、AFモードや測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードでは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードや測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.346）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈ダイヤル〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv: シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈**Tv**〉にする

2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1 モードダイヤルを〈Av〉にする

2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。

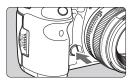
- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

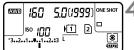
ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら絞り数値を変えて、絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよくわかります（p.198）。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈 〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈 〉または〈 〉を回します。

標準露出指標

露出レベルマーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈 〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

4 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈 〉または〈 〉の表示になります。

ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。

- ［2：オートライティングオプティマイザ］で［マニュアル露出時はOFF］の〈✓〉を外すと、〈M〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.142）。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.22、23）で確認することができます。

測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。〈A+〉モードでは、評価測光に自動設定されます。

1 〈・WB〉ボタンを押す（6）

2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

  ：**評価測光**
  ：**部分測光**
  ：**スポット測光**
  ：**中央部重点平均測光**

評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.2%の範囲を測光します。

[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約1.5%の範囲を測光します。

[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

〈[•]〉設定時に、ファインダー内に〈(!)〉を表示することができます（p.318）。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

P/**Tv**/**Av** モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±３段までです。±３段を超える設定は、クイック設定（p.49）、または次ページの［**2：露出補正／AEB設定**］で行ってください。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

1 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして（4）、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

- ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈〉を回します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈〉を回します。

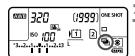
3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈〉の位置に戻します。

［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.142）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈〉または〈〉表示になります。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［2］タブの［**露出補正／AEB設定**］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈〉を回してAEBレベルを設定します。〈〉を回すと露出補正量が設定できます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✱〉と表示パネルの〈〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□〉〈□S〉のときは、3回撮影してください。〈H〉〈〉〈S〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈〉〈2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。
- バルブ撮影時、およびストロボ使用時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

　ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（ⓘ4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

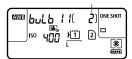
測光モード（p.167）	AFフレーム選択（p.74）	
	自動選択	任意選択
◉*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
◎ ⊡ [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時は、AEロックできません。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈B〉にする

2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

3 撮影する

● シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。

➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

露光経過時間

長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。

● ［3：**長秒時露光のノイズ低減**］を［**自動**］［**する**］に設定すると、長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.144）。

● バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.185）。

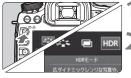
● リモコン（別売／ p.186）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモコンの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

HDR：HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 応用

白とびや黒つぶれを緩和した広ダイナミックレンジな写真や、絵画のような写真を撮影することができます。風景などの静物撮影に適しています。

HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像は、JPEG画質で記録されます。

＊ HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

HDR撮影をする

1 〈☑〉ボタンを押す

2 HDRモードを選ぶ

- 〈◎〉を回して［**HDR**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ HDRモードの画面が表示されます。

3 ［Dレンジ調整］を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、〈SET〉を押します。
- ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、［**HDRオフ**］を選びます。

4 ［仕上がり効果］を設定する

- 仕上がり効果を選び、〈SET〉を押します。

- AEB、WBブラケティング、多重露出が設定されているときや、バルブ撮影、動画撮影時は、HDRモードの設定はできません。
- HDR撮影時は、ストロボは発光しません。

仕上がり効果について

● **ナチュラル**

明暗差の大きいシーンで、通常は白飛びしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白飛びや黒つぶれが緩和された写真になります。

● **絵画調標準**

［**ナチュラル**］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

● **グラフィック調**

［**絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

● **油彩調**

最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **ビンテージ調**

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイルを基本にした画像特性で撮影されます。

5 [HDR撮影の継続] を設定する

- [**1回で終了**] または [**繰り返し**] を選び、〈SET〉を押します。
- [**1回で終了**] を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- [**繰り返し**] を選んだときは、手順3で [**HDRオフ**] を選ぶまでHDR撮影が続きます。

6 [画像位置自動調整] を設定する

- 手持ち撮影を行うときは [**する**]、三脚などを使用するときは [**しない**] を選び、〈SET〉を押します。

7 保存する画像を指定する

- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、[**全画像**] を選び、〈SET〉を押します。
- HDR画像だけを保存するときは、[**HDR画像のみ**] を選び〈SET〉を押します。

8 撮影する

- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- ➡ 表示パネルに〈**HDR**〉が表示されます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

- 拡張ISO感度でHDR撮影を行うことはできません（ISO100～25600の範囲でHDR撮影ができます）。
- [**画像位置自動調整**] を [**する**] に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.247）、およびダストデリートデータ（p.291）は画像に付加されません。

- 三脚の使用をおすすめします。また、手持ち撮影をするときは、高速シャッターで撮影することをおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の移動が残像のように写るため、おすすめできません。静物撮影をおすすめします。
- HDR撮影はシャッター速度を自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、**Tv**、**M**モードでも設定したシャッター速度を基準に、速度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、通常よりもISO感度が高く設定されることがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい/暗い露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレて、HDRの効果が十分に得られないことがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成するため、通常の撮影よりもカードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDRモードを設定したときは、メニュー画面にグレーで表示されている項目は設定できません。なお、HDRモード設定時は、オートライティングオプティマイザが自動的に［**しない**］になります。HDRモードを解除すると、元の設定に戻ります。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像は◢**L**の画質で記録されます。
  RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- ［**z3：HDRモード**］から設定することもできます。

多重露出撮影 応用

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。ライブビュー撮影（p.197）を併用すると、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。

1 〈☑〉ボタンを押す

2 多重露出を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▭］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 多重露出の設定画面が表示されます。

多重露出
多重露出撮影　しない
機能・操作優先
連続撮影優先

3 ［多重露出撮影］を設定する

- ［**機能・操作優先**］または［**連続撮影優先**］を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

● **機能・操作優先**

画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

● **連続撮影優先**

動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影することができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「ライブビュー表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（p.182）」はできません。

また、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。

- WBブラケティング、HDRモードが設定されているときや、動画撮影時は、多重露出撮影の設定はできません。
- ［**連続撮影優先**］の設定でライブビュー撮影を行ったときは、1 枚目を撮影するとライブビュー機能が自動的に終了します。2枚目以降はファインダーを見ながら撮影してください。

4 ［多重露出制御］を設定する

● 露出の重ね合わせ方を選び、〈SET〉を押します。

● **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：－1段」「3枚：－1.5段」「4枚：－2段」

［**機能・操作優先**］＋［**加算**］の設定で撮影途中に表示される画像は、ノイズが多い状態で表示されることがありますが、設定した枚数の撮影が終わると、ノイズ低減処理が行われ、撮影途中に表示されたときよりもノイズが少ない状態で多重露出画像が記録されます。

● **加算平均**

［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。1枚ごとに露光量を変えたいときは［**加算**］を選びます。

● **比較（明）／比較（暗）**

ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

5 ［重ねる枚数］を設定する

● 〈◎〉を回して枚数を選び、〈SET〉を押します。

● 2～9枚の範囲で設定することができます。

6 保存する画像を指定する

- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、［**全画像**］を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、［**多重画像のみ**］を選び〈SET〉を押します。

7 ［多重露出撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

残り撮影枚数

8 1枚目を撮影する

➡ ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が表示されます。

➡〈多重露出〉が点滅します。

- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内または画面に表示される［ ］内の数値で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.182）。

- オートライティングオプティマイザ、高輝度側・階調優先、周辺光量補正、色収差補正は、［**しない**］設定で撮影されます。
- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- ピクチャースタイルが［**オート**］に設定されているときは、［**スタンダード**］で撮影されます。

9 2枚目以降を撮影する

➡ ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が重なって表示されます。

● ライブビュー撮影のときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。

● 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

● 多重露出撮影では、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。また、ISO感度が高くなるほどノイズが増えるため、低ISO感度で撮影することをおすすめします。
● ［**加算**］設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが通常よりも長く点灯します）。
● ［**機能・操作優先**］＋［**加算**］の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
● 手順 9 でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
● ［**連続撮影優先**］設定時は、設定した枚数の撮影が終わったらシャッターボタンから指を離してください。
● 多重露出の設定を行ったあと、電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換を行うと、多重露出撮影が解除されます。
● 撮影途中に撮影モードを〈A+〉〈C1/C2/C3〉にすると、多重露出撮影が終了します。
● 多重露出を設定したときや、多重露出撮影中は、メニュー画面にグレーで表示されている項目は設定できません。
● カメラにパソコン、またはプリンターを接続しているときは、多重露出撮影はできません。

● ［**機能・操作優先**］のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.182）。
● ［**3：多重露出**］から設定することもできます。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されている画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択した画像の元画像はそのまま残ります。

指定できるのはRAW画像のみです。M RAW/S RAW画像、およびJPEG画像は選択できません。

1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

- ［**重ねる画像を選択**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カード内の画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して、1 枚目に設定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［**OK**］を選びます。
- ➡ 選択中の画像番号が、画面下に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- 高輝度側・階調優先を［**する**］に設定して撮影した画像、アスペクト比が 3：2以外の画像（p.204）、トリミング情報が付加された画像（p.320）は、1枚目に指定できません。
- オートライティングオプティマイザ、周辺光量補正、色収差補正は、1枚目に指定したRAW画像の設定に関わらず、［**しない**］設定で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定したRAW画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定した RAW 画像のピクチャースタイルが［**オート**］のときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について

［**機能・操作優先**］設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（［**連続撮影優先**］時不可）。

この状態で〈㎡〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
前の画面に戻る	項目を消して〈㎡〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	［**撮影画像の保存：全画像**］設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 ［**撮影画像の保存：多重画像のみ**］設定時は、多重露出画像だけを保存して終了します。
保存しないで終了	途中まで撮影した全画像を保存しないで終了します。

多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

こんなときは

● **記録画質に制限はありますか？**

JPEGは全記録画質を選択できます。M RAW/S RAW のときは、多重露出画像は RAW で記録されます。

記録画質設定	重ね合わせる画像	多重露出画像
JPEG	JPEG	JPEG
RAW	RAW	RAW
M RAW/S RAW	M RAW/S RAW	RAW
RAW +JPEG	RAW +JPEG	RAW +JPEG
M RAW/S RAW +JPEG	M RAW/S RAW +JPEG	RAW +JPEG

● **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.181）。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

● **ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？**

［**機能・操作優先**］設定時は、ライブビュー撮影でも多重露出を行うことができます（p.197）。ただし、［**4：アスペクト比**］は［**3：2**］に固定されます。

● **多重露出画像の画像番号はどうなりますか？**

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で保存されます。

● **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間通りにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

1 ［ミラーアップ撮影］を［する］に設定する

- ［1］タブの［ミラーアップ撮影］を選び、〈SET〉を押します。
- ［する］を選び〈SET〉を押します。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がり、表示パネルの〈〉が点滅します。

3 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。

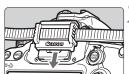
- ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.185）。
- リモコン（別売／ p.186）を併用することもできます。リモコンのスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

アイピースカバーの使い方

セルフタイマー撮影やバルブ撮影のときなど、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー(p.27)を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。

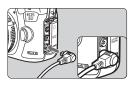
1 アイカップを取り外す

● アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3(別売)や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3(別売)など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます(p.356)。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

● 図のように取り付けます。

● 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

リモコン撮影

リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

リモートコントローラー RC-1とRC-5を使用することもできます。

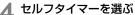
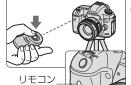
1 ピントを合わせる

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- 〈AF〉で撮影することもできます。

3 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

4 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◯〉を回して、〈◯〉または〈◯2〉を選びます。

5 リモコンの送信ボタンを押す

- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。
- ➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

リモコン受信部

蛍光灯やLED電球などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。

6

ストロボ撮影

この章では、EOS用のEXスピードライト（別売）や、汎用ストロボを使った撮影方法、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。

⚡ ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、ストロボなしの撮影と同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能や、ストロボのカスタム機能を設定する方法については、191～196ページを参照してください。

クリップオンタイプストロボ　　マクロストロボ

- **FEロック**

  被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押してから撮影します。

- **ストロボ調光補正**

  露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

  カメラの〈ISO・⚡±〉ボタンを押したあと、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

［📷2：**オートライティングオプティマイザ**］（p.142）が［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする調光補正を行っても、明るく撮影されることがあります。

AF でピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

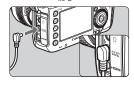
EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトをA-TTL またはTTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉(マニュアル露出)、または〈**Av**〉(絞り優先AE) に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用することができます。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[4:LV静音撮影] を [しない] 設定にしてください (p.206)。[モード1] [モード2] に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。**設定を行う前に、ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。

1 ［外部ストロボ制御］を選ぶ

- ［1］タブの［**外部ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 外部ストロボ制御画面が表示されます。

2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び、〈SET〉を押します。

【ストロボの発光】

ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

【E-TTL II 調光方式】

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

【Avモード時のストロボ同調速度】

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● **AUTO：自動**

明るさに応じてシャッター速度が1/200～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● **1/200-1/60A：1/200-1/60秒自動**

暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● **1/200：1/200秒固定**

シャッター速度が1/200秒に固定されるため、［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

［**1/200-1/60秒自動**］［**1/200秒固定**］設定時は、〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

[ストロボ機能設定]

画面に表示される内容や設定できる項目は、ストロボの機種や現在設定されているストロボの発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

使用するストロボが対応している機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例

● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

［**E-TTL II**］は、ストロボの自動撮影ができる、EXシリーズスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● ワイヤレス機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したスピードライトの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）

ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［**AUTO**］に設定します。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞りを優先して行いたいときに有効です。

● 調光補正

188ページの『ストロボ調光補正』と同じ設定を行うことができます。

詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● FEB

ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

- ［**ストロボ機能設定初期化**］を選ぶと、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］、および［**ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（〈ISO・調光補正〉ボタン、ストロボ機能設定）。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- ［**ストロボカスタム機能設定**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 機能を設定する

- 〈◎〉を回して番号を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈(SET)〉を押します。

ストロボカスタム機能一括解除

［**ストロボカスタム機能一括解除**］を選ぶと、ストロボに設定されているカスタム機能がすべて解除されます（［**C.Fn-00：距離表示**］を除く）。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［**TTL**］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

［**外部ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

7

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.394）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.396）を参照してください。

〈📷〉液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

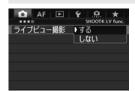
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモード（p.207）でピント合わせが行われます。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約100%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 測光モードはライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードでは、絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- リモコン（別売／p.186）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

ライブビュー撮影ができないときは

［4：ライブビュー撮影］を［する］に設定します。

〈A+〉モードでは、［2］に表示されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　［約・枚］

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	200	180

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間30分です。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、215、216ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。
- カメラを操作しない状態が続くと、［2：オートパワーオフ］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.55）。なお、設定が［しない］のときは、30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 付属のステレオAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.268、271）。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

AFモード
・ AFLive :ライブモード
・ AF :顔優先ライブモード
・ AFQuick :クイックモード

撮影モード
ドライブモード
ホワイトバランス
ピクチャースタイル
記録・再生カード
記録画質
ストロボ調光補正
AEロック
ストロボ充電完了
シャッター速度
HDR撮影／多重露出撮影
絞り数値
露出レベル表示

オートライティングオプティマイザ
Eye-Fiカード通信状態
AFフレーム（ライブモード）
ヒストグラム
GPS接続表示
FEB撮影
拡大倍率・位置
露出シミュレーション
電池チェック
高輝度側・階調優先
AEB撮影
ISO感度
電子コンパス
撮影可能枚数

● ヒストグラムは、［**露出Simulation：する**］（p.205）のときに表示することができます。
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.60）。なお、AFモードが［**ライブモード**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
● 〈ExpSIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
● 〈ExpSIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈ExpSIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出（[**露出Simulation：する**]設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

撮影機能の設定

ISO／⊠／AF／DRIVE／WB／⊞／⁂設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈ISO・⊠〉／〈AF・DRIVE〉／〈◉・WB〉／〈⊞〉／〈☑〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉で撮影機能の設定を行うことができます。

AFQuick 設定時に〈⊞〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードと、AFフレームを選択することができます。操作方法は、ファインダー撮影時と同じです。なお、〈◉〉測光モードは設定できません。

Q クイック設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、オートライティングオプティマイザ、カード選択、記録機能、記録画質の設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈✣〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定します。
- 記録機能の設定を行うときは、〈SET〉を押したあと〈◎〉〈⚙〉を回して設定します。

MENU メニュー機能の設定

ライブビュー撮影特有の機能設定について説明します。メニューの［4］タブで表示される各項目の内容は、203～206ページのとおりです。〈〉モードでは、［2］に表示されます。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は無効になります。

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AFモード**

［**ライブモード**］（p.207）、［**ライブモード**］（p.208）、［**クイックモード**］（p.212）が選択できます。

● **グリッド**

［**9分割**］または［**24分割**］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● アスペクト比 応用

画像のアスペクト比（横縦比率）を［3:2］［4:3］［16:9］［1:1］から選択することができます。［4:3］［16:9］［1:1］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態でライブビュー映像が表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［3:2］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、カメラや付属ソフトウェアで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

［**.3：トリミング情報の付加**］が［**しない**］以外に設定されているときは、アスペクト比が3：2になります（アスペクト比は変更できません）。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
L RAW	5760×3840 （2210万）	5120×3840 （1970万）	5760×3240 （1870万）	3840×3840 （1470万）
M	3840×2560 （980万）	3408×2560* （870万）	3840×2160 （830万）	2560×2560 （660万）
M RAW	3960×2640 （1050万）	3520×2640 （930万）	3960×2228* （880万）	2640×2640 （700万）
S1	2880×1920 （550万）	2560×1920 （490万）	2880×1624* （470万）	1920×1920 （370万）
S RAW	2880×1920 （550万）	2560×1920 （490万）	2880×1620 （470万）	1920×1920 （370万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×400* （29万）	480×480 （23万）

- 「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲よりもわずかに広い範囲が表示されます。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

［2：ライブビュー撮影範囲表示］で撮影範囲の表示方法を設定することができます（p.318）。

● 露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

・**する（Exp.SIM）**

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・**絞り込み中**

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。

・**しない（DISP）**

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

- ［ISO 感度設定範囲］で［上限値］を初期設定から拡張すると、より暗い場所でもライブビュー撮影ができるようになります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。

● **LV静音撮影** 応用

・**モード1**

通常撮影よりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、〈□H〉設定時は、最高約6コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

・**モード2**

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・**しない**

TS-Eレンズ（に記載したレンズを除く）を使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

● ストロボ撮影時は、［**LV静音撮影**］の設定に関わらず、静音撮影はできません。
● 汎用ストロボを使用するときは、［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
● ［**モード2**］の設定でリモコン撮影（p.186）を行ったときは、［**モード1**］と同じ動作になります。

TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、［**モード1**］［**モード2**］で使用することができます。

● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

［**3：ダストデリートデータ取得**］［**3：センサークリーニング**］［**4：カメラ設定初期化**］［**4：ファームウェア**］を選んだときは、ライブビュー機能が終了します。

AFでピントを合わせる

AFモードを選ぶ

AFモードには、[**ライブモード**]、[**ライブモード**]（顔優先／p.208）、[**クイックモード**]（p.212）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.214）。

AFモードを選ぶ

- [4] タブの［**AFモード**］で選びます。〈〉モードでは、[2] に表示されます。
- ライブビュー映像表示中に〈AF・DRIVE〉ボタンを押して、表示される設定画面でAFモードを選ぶこともできます。

ライブモード：AFLive

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**クイックモードよりもピント合わせに時間がかかります**。また、クイックモードよりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい場所に、〈〉で動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈〉をまっすぐに押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

3 ピントを合わせる

- ● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.198）。

☺（顔優先）ライブモード：AF☺

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- ● 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ● 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈[ ]〉が顔の部分に表示されます。
- ● 複数の顔を検知しているときは〈◂[ ]▸〉が表示されます。〈✥〉でピントを合わせたい顔に〈◂[ ]▸〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈⁚⁚〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.198）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈⁚⁚〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈⁚⁚〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈✣〉をまっすぐに押すか〈SET〉を押すと、ライブモード（p.207）に切り換わり、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。もう一度〈✣〉をまっすぐに押すか〈SET〉を押すと、☺（顔優先）ライブモードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈⁚⁚〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードと（顔優先）ライブモードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブモードで〈Q〉ボタンを押すと、AF フレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ライブモードのときは、〈Q〉ボタンを押しても拡大表示されません。

- ライブモード、（顔優先）ライブモードで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、ライブモード、（顔優先）ライブモード時に、必要に応じてAF補助用のライトが自動点灯します。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

以下のレンズでAFを行うときは、［**クイックモード**］をおすすめします。［**ライブモード**］［**ライブモード**］でAFを行うと、ピントが合うまでの時間が長くなったり、適切なピント合わせができないことがあります。
EF24mm F2.8、EF35mm F2、EF50mm F2.5 Compact Macro、EF100mm F2.8 Macro、EF135mm F2.8 (Softfocus)、EF28-90mm F4-5.6 III、EF55-200mm F4.5-5.6 USM、EF90-300mm F4.5-5.6、EF90-300mm F4.5-5.6 USM

クイックモード：AFQuick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.70）でピント合わせを行います。

ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

測距エリア選択モードが61点自動選択モード以外のときは、AFフレームを任意選択することができます。なお、〈A+〉モードでは、61点自動選択AFに自動設定されます。

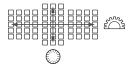
エリアAFフレーム

拡大表示枠

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 測距エリア選択モードが61点自動選択AFのときは、画面にエリアAFフレームが表示されます。
- それ以外のモードのときは、AF フレームが小さい枠で表示されます。
- 大きい四角い枠は、拡大表示枠です。

2 測距エリア選択モードを選ぶ

- 〈⊞〉ボタンを押します。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

3 AFフレームを選ぶ

- 〈◈〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈◈〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。
- 〈⚙〉と〈◎〉で選択することもできます。〈⚙〉で横方向、〈◎〉で縦方向のAFフレームを選択することができます。

4 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます（撮影は行われません）。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピント合わせに使用したAFフレームが緑色で表示されます。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色で点滅します。

5 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.198）。

AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈✣〉で拡大表示枠を移動します。
- 〈✣〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

3 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 枠内が拡大表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→約5倍 → 約10倍 → 通常表示

AEロック

拡大表示位置

拡大率

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.198）。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈 〉と赤い〈 〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈 〉が表示されます。このマークが表示された状態で撮影すると、画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い〈 〉が表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈 〉が点滅します。このマークは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈 〉と〈 〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈 〉が表示される手前でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色で表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.142）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。
- TS-Eレンズを使用して上下方向のシフトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**¥2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.314）。

レンズとストロボについて

- 2011年下期 以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

8

動画を撮影する

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈'■〉にすると、動画を撮影することができます。記録形式はMOV形式です。

動画が記録できるカードについて

- **動画を撮影するときは、書き込み / 読み取り速度が下表の速度以上で、大容量のカードを使用してください。**

圧縮形式（p.231）	**CFカード**	**SDカード**
IPB	10MB/秒以上	6MB/秒以上
ALL-I（I-only）	30MB/秒以上	20MB/秒以上

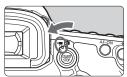
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ᐦ🎥 動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが〈A+〉〈**P**〉〈**B**〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、露出制御の内容は、どの撮影モードでも同じです。

動画撮影中

マイク

1 **モードダイヤルを〈A+〉〈P〉〈B〉のいずれかにする**

2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈ᐦ🎥〉にする**

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

3 **ピントを合わせる**

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.207～214）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。

4 **動画を撮影する**

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

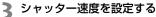
動画撮影時の注意事項については、226ページを参照してください。

シャッター優先AE撮影

撮影モードを〈**Tv**〉に設定すると、任意にシャッター速度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1 **モードダイヤルを〈Tv〉にする**

2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈動画〉にする**

3 **シャッター速度を設定する**

シャッター速度

- 液晶モニターを見ながら〈ダイヤル〉を回します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈フレームレート〉により異なります。
  - ・30 25 24　：1/4000～1/30秒
  - ・60 50　：1/4000～1/60秒

4 **ピントを合わせて撮影する**

- 『自動露出撮影』の手順3, 4と同じです(p.218)。

- 動画撮影中にシャッター速度の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

撮影モードを〈**Av**〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッター速度は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

絞り数値

3 絞り数値を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3, 4と同じです(p.218)。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

A+モード時のISO感度について

- A+モード時は、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

P/Tv/Av/Bモード時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- **P**/**Av**/**B** モードで［2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［25600/H］に設定すると（p.126）、自動設定範囲の上限が拡張されH（ISO25600相当）になります。なお、［上限値］を［25600］に設定したときは、上限はISO12800のまま拡張されません。ご注意ください。
- ［3：高輝度側・階調優先］を［する］に設定したときは（p.146）、ISO感度がISO200～12800になります。
- 動画撮影時は、［2：ISO感度に関する設定］の［ISOオートの範囲］［ISOオート低速限界］は設定できません（p.127、128）。また、**Tv** モードでは、［ISO感度設定範囲］は設定できません。

［ISO感度設定範囲］の［下限値］が［L（50）］、［上限値］が［H1（51200）］［H2（102400）］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における自動設定範囲の下限がISO100、上限がH（ISO25600相当／A+/**Tv** モードを除く）になります。ISO50相当、およびISO51200/102400相当のISO感度拡張はできません。

自動露出、シャッター優先AE、絞り優先AE撮影の共通事項

- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（A+モードを除く／p.171）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈LOCK▶〉スイッチを左側にして〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます（A+モードを除く）。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される、ISO 感度、シャッター速度は、静止画撮影用の露出値です（p.225）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）について

このカメラは、A+/**P**/**Tv**/**Av**/**B** モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にする

3 ISO感度を設定する

- 〈ISO・ 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈 〉を回してISO感度を設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。

シャッター速度

絞り数値

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。設定できる速度は、フレームレート〈 〉により異なります。
  - ・30 25 24　：1/4000～1/30秒
  - ・60 50　　：1/4000～1/60秒
- 絞り数値は、〈 〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈 〉または〈 〉を回します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.218)。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

- ［Auto］（A）のときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。［2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［25600/H］に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張されH（ISO25600相当）になります。なお、［上限値］を［25600］に設定したときは、上限はISO12800のまま拡張されません。ご注意ください。
- ［3：高輝度側・階調優先］を［する］に設定したときは（p.146）、ISO感度がISO200～12800になります（［ISO感度設定範囲］の設定による）。
- 動画撮影時は、［2：ISO感度に関する設定］の［ISOオートの範囲］［ISOオート低速限界］は設定できません（p.127、128）。

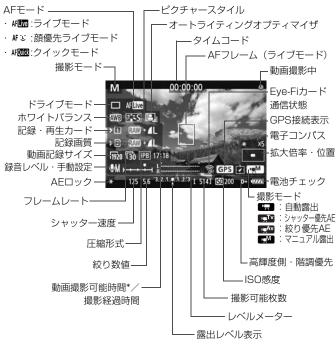
- 動画撮影時のISO16000/20000/25600は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「H」表示）。
- ［ISO感度設定範囲］の［下限値］が［L (50)］、［上限値］が［H1 (51200)］［H2 (102400)］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における手動設定範囲の下限が ISO100、上限が H (ISO25600相当) になります。ISO50相当、およびISO51200/102400相当のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.22、225）で確認することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

AFモード
・AFLive :ライブモード
・AF :顔優先ライブモード
・AFQuick :クイックモード

撮影モード
ドライブモード
ホワイトバランス
記録・再生カード
記録画質
動画記録サイズ
録音レベル・手動設定
AEロック
フレームレート
シャッター速度
圧縮形式
絞り数値
動画撮影可能時間*／撮影経過時間
ピクチャースタイル
オートライティングオプティマイザ
タイムコード
AFフレーム（ライブモード）
動画撮影中
Eye-Fiカード通信状態
GPS接続表示
電子コンパス
拡大倍率・位置
電池チェック
撮影モード
：自動露出
：シャッター優先AE
：絞り優先AE
：マニュアル露出
高輝度側・階調優先
ISO感度
撮影可能枚数
レベルメーター
露出レベル表示

* 1回の撮影可能時間です。

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.60）。
● AFモードが［ライブモード］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.268）したときは、水準器は表示されません。
● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
● 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通事項

- ビデオカメラのように、自動的にピントを合わせ続ける機能は搭載していません。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあります。
- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］を［**同一書き込み**］に設定しても（p.116）、動画をCFカード〈1〉とSDカード〈2〉に同時記録することはできません。なお、［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にレンズのズーム操作を行うことはおすすめできません。ズーム操作により開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、露出変化が記録されることがあります。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、241、242ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて215、216ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

- メニューの［4］［5］タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.239）。〈A+〉モード時は、［2］［3］タブです。
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、約100％（動画記録サイズ1920時）です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- 動画撮影中にピント合わせを行うときは、〈AF-ON〉ボタンを押してください。シャッターボタンでピント合わせはできません。
- ［**5：動画撮影ボタン**］で［/START STOP］を選ぶと、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（p.240）。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.218）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.19）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。

動画撮影時共通事項

- ヘッドフォン端子（p.19）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。
- リモートコントローラー RC-6（別売／p.186）を使用すると、ドライブモードが〈 〉と〈 2〉のときに、動画撮影の開始／停止を行うことができます。撮影タイミングスイッチを〈**2**〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6で動画撮影できる時間は、常温（＋23℃）：合計約1時間30分、低温（0℃）：合計約1時間20分です。
- 2011年下期以降に発売された、パワーフォーカス機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にパワーフォーカスを行うことができます。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは､ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先

静止画を撮影する

シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影することができます。

動画時の静止画撮影について

- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約1秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- ［**記録機能**］（p.116）が［**標準**］［**カード自動切り換え**］のときは、動画と静止画は同じカードに記録されます。［**振り分け**］［**同一書き込み**］のときは、動画は［**再生**］に設定されているカード、静止画はそれぞれのカードに対する記録画質の設定通りに記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。その他の機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	［**🔴1：記録画質**］設定のとおり 動画記録サイズ［**1920×1080**］［**1280×720**］設定時は16：9、［**640×480**］設定時は4：3のアスペクト比で撮影
ISO感度*	・〈**A+**/**P**/**Tv**/**Av**/**B**〉：100～12800 ・〈**M**〉：224ページ『マニュアル露出撮影時のISO感度について』参照
露出値	・〈**A+**/**P**/**B**〉：自動設定されたシャッター速度、絞り数値 ・〈**Tv**〉：手動設定したシャッター速度、自動設定された絞り数値 ・〈**Av**〉：手動設定した絞り数値、自動設定されたシャッター速度 ・〈**M**〉：手動設定したシャッター速度、絞り数値

* 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～となる

- AEB撮影はできません。
- 外部ストロボを使用しても発光しません。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は映像が表示されません。なお、静止画の記録画質や、連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。
- ［**5：動画撮影ボタン**］が［/］のときは、静止画撮影はできません。

- 動画撮影中に静止画を連続撮影するときは、高速タイプのカードの使用をおすすめします。また、静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすることをおすすめします。
- すべてのドライブモードで撮影できます。
- セルフタイマーは動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は1枚撮影に切り換わります。

撮影機能の設定

AF／DRIVE／WB／ISO／〈⊞〉／〈ピクチャースタイル〉設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈AF・DRIVE〉／〈⊙・WB〉／〈ISO・⚡±〉／〈⊞〉／〈✍〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉で撮影機能の設定を行うことができます。

AFQuick設定時に〈⊞〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードと、AFフレームを選択することができます。操作方法は、ファインダー撮影時と同じです。マニュアル露出撮影時（p.223）に〈ISO・⚡±〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。

なお、〈⊙〉測光モード、〈⚡±〉調光補正、〈**HDR**〉HDRモード、〈▭〉多重露出は設定できません。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、オートライティングオプティマイザ、カード選択、記録機能、記録画質（静止画）、動画記録サイズ、録音レベル（[**録音：マニュアル**］設定時）の設定を行うことができます。

1 **〈Q〉ボタンを押す**

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 **機能を選んで設定する**

- 〈✣〉で機能を選びます。

➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。

- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定します。
- カード選択、記録機能の設定を行うときは、〈SET〉を押したあと、〈◎〉〈⚙〉を回して設定します。

動画撮影中は、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、露出補正、録音レベルの設定ができます（撮影モード、[**録音**］の設定により、設定できる内容が異なります）。

MENU 動画記録画質の設定

［4：**動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ、フレームレート（1秒間に何コマ記録するか）、圧縮形式を設定することができます。なお、フレームレートは、［3：**ビデオ出力方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

〈〉モードのときは、［2］に表示されます。

● 画像サイズ

1920 ［1920×1080］：フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

1280 ［1280×720］：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

640 ［640×480］：標準画質で記録します。画面の横縦比は4：3です。

● フレームレート（fps：frame per second）

30／60：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25／50：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

24：主に映画関連で使用します。

● 圧縮形式

IPB IPB：複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-Iよりもファイルサイズが小さくなるため、撮影できる時間が長くなります。

ALL-I ALL-I（I-only）：1フレーム単位で圧縮して記録します。IPBよりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録サイズ			総記録時間（約）			ファイルサイズ（約）
			4GBカード	8GBカード	16GBカード	
1920	30 25 24	IPB	16分	32分	1時間4分	235MB/分
	30 25 24	ALL-I	5分	11分	22分	685MB/分
1280	60 50	IPB	18分	37分	1時間14分	205MB/分
	60 50	ALL-I	6分	12分	25分	610MB/分
640	30 25	IPB	48分	1時間37分	3時間14分	78MB/分

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間、またはタイムコードが点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- カメラ内部の温度上昇により、前ページの表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.241）。
- ［**記録機能**］を［**カード自動切り換え**］に設定していても、動画撮影中はカードの自動切り換えは行われません。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

MENU 録音の設定

内蔵のモノラルマイク、または市販のステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［4：録音］で録音に関する設定を行います。〈A+〉モードのときは、［2］に表示されます。

録音／録音レベル

［オート］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［マニュアル］：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

［録音レベル］を選び、レベルメーターを見ながら〈〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（－12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能（3秒間）を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［しない］　：録音は行われません。

ウィンドカット

［入］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。

ただし、［入］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［切］に設定することをおすすめします。［入］のときよりも自然な音で録音されます。

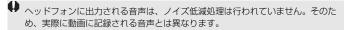
● **マイクについて**

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.19）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子（p.19）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。外部ステレオマイク使用時は、ステレオで聴くことができます。

なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

ヘッドフォンに出力される音声は、ノイズ低減処理は行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。

- 撮影モードが〈A+〉のときは、[**録音**]：[**する／しない**] になります。なお、[**する**] に設定したときは、録音レベルが自動調整され（[**オート**] と同じ）、ウィンドカットが行われます。
- ヘッドフォンの音量調節を行うときは、〈Q〉ボタンを押したあと、〈**RATE**〉ボタンを押しながら〈✲〉を上下に操作します。なお、音量調節の表示は画面に表示されません。ヘッドフォンの音声を聴きながら調整してください。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- L/Rともに、サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。
- [**5：動画サイレント設定**] を [**有効**] にすると（p.236）、動画撮影中に〈〉（十字タッチパッド）を使って操作音を抑えながら録音レベルを調整することができます。

MENU 動画サイレント設定

動画撮影中に操作音を抑えながら、ISO感度や録音レベルなどの設定を変更したいときに有効です。

［◘5：**動画サイレント設定**］を［⊕**有効**］に設定すると、サブ電子ダイヤルの内側にある、〈⊕〉（十字タッチパッド）が機能するようになります。

〈A+〉モードのときは、［◘3］に表示されます。

〈⊕〉の上下左右に触れるだけで静かに操作することができます。

動画撮影中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定状態にすると、〈⊕〉で以下の機能の設定を変更することができます。

変更可能項目	撮影モード			
	P/**B**	**Tv**	**Av**	**M**
①シャッター速度	−	○	−	○
②絞り数値	−	−	○	○
③ISO感度	−	−	−	○
④露出補正	○	○	○	−
⑤録音レベル	○	○	○	○

- ［◘5：**動画サイレント設定**］を［⊕**有効**］に設定したときは、動画撮影中に〈◎〉（サブ電子ダイヤル）で録音レベルを調整することはできません。
- 〈⊕〉で静かに絞り数値を変更しても、絞りの駆動音は動画に記録されます。
- 〈⊕〉に水や汚れなどが付くと、動作しないことがあります。そのときは、布などできれいにふき取ってください。ふき取っても動作しないときは、しばらく経ってから操作してください。

動画撮影開始前は、クイック設定および［**録音レベル**］の設定で、〈⊕〉を使って録音レベルの調整を行うことができます。

MENU タイムコードの設定

タイムコードとは、動画撮影時に映像・音声に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［**5：タイムコード**］でタイムコードの設定を行います。〈A+〉モードのときは、［**3**］に表示されます。

カウントアップ

［**レックラン**］　：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。

［**フリーラン**］　：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

［**手動入力設定**］　：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

［**リセット**］　：［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00：00：00：00」になります。

［**カメラ時間に設定**］：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

［**記録時間**］　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。

［**タイムコード**］　：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.36）、タイムコードに影響が生じます。

タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

［**記録時間**］　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

［**タイムコード**］：動画再生時にタイムコードが表示されます。

［タイムコード］設定時

動画撮影時

動画再生時

- ［**5（動画）：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**3：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

ドロップフレーム

フレームレートが、30（29.97fps）、60（59.94fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。この差を自動的に補正することができます。この機能をドロップフレームといいます。

［**する**］　：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます。

［**しない**］：補正は行われません。

フレームレートが24（23.976fps）のときは、ドロップフレームは行われません。

MENU メニュー機能の設定

[📷4] メニュー

　ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈'🎥〉にすると、メニューの［📷4］［📷5］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます。各項目の内容は下記のとおりです。

　〈A⁺〉モードのときは、［📷2］［📷3］に表示されます。

● **AFモード**

　207～213ページで説明しているAFモードと同じです。［**ライブモード**］［**:)ライブモード**］［**クイックモード**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

　なお、AF モードを［**クイックモード**］に設定していても、動画撮影中は［**ライブモード**］に切り換わります。

● **グリッド**

　［**9分割** ⋕］または［**24分割** ▦］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角** ⋇］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **動画記録サイズ**

　動画記録画質（画像サイズ、フレームレート、圧縮形式）を設定することができます。詳しくは、231～233ページを参照してください。

● **録音**

　録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、234、235ページを参照してください。

● **LV静音撮影** 応用

静止画撮影用の機能です。詳しくは、206ページを参照してください。

● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

[5] メニュー

● **タイムコード**

タイムコードを設定することができます。詳しくは、237、238ページを参照してください。

● **動画サイレント設定**

［**有効**］にすると、動画撮影中のクイック設定時に、十字タッチパッド〈〉を使って、操作音を抑えながら設定を変更することができます。詳しくは、236ページを参照してください。

● **動画撮影ボタン**

［/START STOP］に設定すると、〈START/STOP〉ボタンだけでなくシャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（p.185）。ただし、［/START STOP］に設定したときは、静止画撮影（p.228）はできません。

動画撮影全般に関する注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈〉と赤い〈〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈〉が表示されます。このマークが表示された状態で動画撮影をしても、動画の画質はほとんど低下しません。ただし、静止画を撮影すると、静止画の画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い〈〉が表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈〉が点滅します。このマークは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈〉と〈〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。

動画撮影全般に関する注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

動画撮影時の静止画撮影について

- 静止画撮影の画質については、215ページの『画質について』を参照してください。

再生とテレビ接続について

- 自動露出撮影、シャッター優先AE撮影、絞り優先AE撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- カメラとテレビを接続（p.268、271）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

9

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する

1枚表示

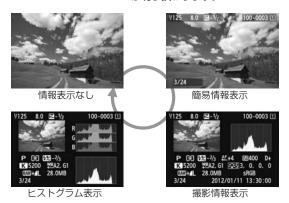
1 **画像を再生する**

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 **画像を選ぶ**

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし　簡易情報表示

ヒストグラム表示　撮影情報表示

3 再生を終了する

● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

MENU グリッド表示について

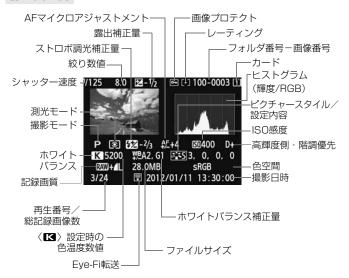
1枚表示、2枚表示（p.253）のときに、再生画像に重ねて格子線を表示することができます。

［▶3：**再生時のグリッド**］で［**9分割**＃］［**24分割**＃］［**9分割+対角**］から選ぶことができます。

撮影画像の水平、垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

INFO.：撮影情報の内容

静止画の例

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈 〉が表示されます。

* HDRモードで撮影した画像は、〈**HDR**〉とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。

* 多重露出で撮影した画像は、〈 〉が表示されます。

* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈 〉が表示されます。

* RAW現像、リサイズを行った画像は、〈 〉が表示されます。

動画の例

● **ハイライト警告表示について**

［▶3：ハイライト警告表示］を［する］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● **AFフレーム表示について**

［▶3：AFフレーム表示］を［する］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶3：ヒストグラム］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または９枚の画像を表示することができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で、〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［ Q］が表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- 〈〉をさらに左に回すと、9枚表示になります。〈〉を右に回すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

3 画像を選ぶ

- 〈〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して［ Q］の表示を消した状態で〈〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。

1 ［ での画像送り］を選ぶ

- ［ 2］タブの［ での画像送り］を選び、〈 〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈 〉を回して、ジャンプ方法を選び、〈 〉を押します。

  ：**1枚ずつ画像表示**
  ：**10枚飛びに画像表示**
  ：**100枚飛びに画像表示**
  ：**撮影日を切り換えて画像を表示**
  ：**フォルダを切り換えて画像を表示**
  ：**動画だけを表示**
  ：**静止画だけを表示**
  ：**指定したレーティング**（p.255）**の画像を表示**
  〈 〉を回して選びます。

ジャンプ方法
再生位置

3 画像送りをする

- 〈 〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈 〉を回します。

- ［**撮影日**］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［**フォルダ**］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［**動画**］［**静止画**］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［**レーティング**］で対象となる画像がないときは、〈 〉を回しても画像送りは行われません。

Q 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像再生中（1枚表示）、撮影直後の画像表示中、撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と［ Q］が表示されます。
- 〈 〉を右に回すごとに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈 〉を左に回すごとに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（p.249）になります。

2 表示位置を移動する

- 〈 〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 拡大表示中に〈 〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後に表示された画像を拡大表示することもできます。
- 動画は拡大表示できません。

MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する

［▶3］タブの［**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。

- **1倍（拡大なし）**

　拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。

- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**

　選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。

- **等倍（任意選択合焦点から）**

　記録画像の画素を約100%で表示します。合焦したAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

- **前回と同じ倍率（中央から）**

　前回、〈▶〉〈🔍〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

［**ライブモード**］［**ライブモード**］（p.207）で撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

◫ 画像を比較する（2枚表示）

撮影した画像を、左右に並べて表示することができます。

1 2枚表示にする

● 画像を再生した状態で、〈◫・凸〉ボタンを押します。

➡ 2枚表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。

2 比較する画像を選ぶ

● 〈SET〉を押すと、青色の枠が切り換わります。

● 〈◎〉を回して画像を選びます。

● 手順2を繰り返して、左右の画像を選びます。

● 〈Q〉ボタンを押すと、左右の画像の拡大倍率、拡大位置を同じにすることができます（青色の枠が付いていない画像と同じ拡大設定になります）。

● 〈▶〉ボタンを押している間、青色の枠が付いている画像を1枚表示にすることができます。

● 〈◫・凸〉ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。

● 拡大表示、ジャンプ表示、レーティング、画像プロテクト、画像消去を行うことができます。

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、情報表示を切り換えることができます。

● 2枚表示の状態から動画を再生することはできません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。

1 [画像回転] を選ぶ

● [▶1] タブの [**画像回転**] を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

● 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
● インデックス表示 (p.249) にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

● 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転 (90°→270°→0°) します。
● ほかに回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
● 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

● [🔧1：**縦位置画像回転表示**] を [**する**📷🖥] (p.280) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
● 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[🔧1：**縦位置画像回転表示**] を [**する**📷🖥] に設定します。
● 動画は回転できません。

お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]）を付加することができます。この機能をレーティングといいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

〈RATE〉ボタンで設定する

1 画像を選ぶ

- 画像を再生した状態で〈◎〉を回して、お気に入りマークを付ける画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.249）。

2 お気に入り情報を付ける

- 〈RATE〉ボタンを押すたびに、お気に入りマークが切り換わります（[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]/なし）。
- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

- ［¥3：RATEボタンの機能］を［プロテクト］に設定しているときは、［レーティング］に変更してください。
- ［¥3：RATEボタンの機能］で［レーティング］を選んで〈Q〉ボタンを押すと、〈RATE〉ボタンを押したときに選択できる（使用する）お気に入りマークを設定することができます。

MENU メニューから設定する

1 ［レーティング］を選ぶ

- ［▶2］タブの［レーティング］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して、お気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して、〈◎〉を左に回していくと、3画像表示にして選ぶことができます。〈◎〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈SET〉を押すと、［SET］マークが消えます。
- 〈◎〉を回して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、［###］と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- ［▶2：◎ での画像送り］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- ［▶2：スライドショー］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます。
- Windows 7、Windows Vistaでは、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、「評価」という項目でお気に入りマークを確認することができます。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**On：画像プロテクト**／回：画像回転／**★：レーティング**／RAW/JPEG：RAW現像（RAW画像のみ）／リサイズ：リサイズ（JPEG画像のみ）／**ハイライト警告表示**／**AFフレーム表示**／**10：での画像送り**］の設定を行うことができます。

なお、動画のときは、太字の項目のみ設定できます。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈✣〉を上下に押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉を回して設定します。
- RAW現像とリサイズは、さらに〈SET〉を押して設定を行います。詳しくは、RAW現像（p.282）とリサイズ（p.287）のページを参照してください。キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、［1：**縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定してください。［1：**縦位置画像回転表示**］が［**する**］［**しない**］に設定されているときは、［ **画像回転**］で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1画面表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.268、271)

付属のAVケーブル、または別売のHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

フルハイビジョン（Full HD：1920×1080）、またはハイビジョン（HD：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルでハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- 動画が入ったカードは、MOV形式の動画ファイルの再生に対応した機器以外では再生できません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.261～267)

カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する (p.394)

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのImageBrowser EXで再生することができます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ImageBrowser EXガイド（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈 SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

スピーカー

4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して[▶](再生)を選び、〈SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈⚙〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

ヘッドフォンで動画の音声を聴くときは、耳を痛めないように、音量を下げてから取り付けてください。

項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（p.263）。
	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時）
hh:mm:ss:ff	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.261）の音量を調整することができます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6で連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約3時間30分です。
- ヘッドフォン端子（p.19）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画の音声を聴くことができます（p.235）。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.268、271）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止した映像が表示されます。

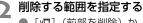
✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。

2 削除する範囲を指定する

● ［✂□］（前部を削除）か、［□✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。

● 〈✥〉を左右に押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。〈◎〉を回すと、1フレームずつ送られます。

● 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部の青色で表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

● ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、青色で表示された範囲が再生されます。

● 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。

● 編集を中止するときは、［⮌］を選び〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［保存］を選んで〈SET〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選び〈SET〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約1秒単位（［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 [スライドショー] を選ぶ

- ［▶2］タブの［スライドショー］を選び、〈SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

[全画像/動画/静止画]

- 〈◎〉を回して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

[日付/フォルダ/レーティング]

- 〈◎〉を回して［**日付/フォルダ/★レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

［日付］

［フォルダ］

［レーティング］

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 再生間隔とリピートを設定する

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

［**リピート**］

4 スライドショーを開始する

- 〈◎〉を回して［スタート］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［画像読み込み中...］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

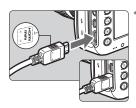
- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。再度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（p.244）。
- 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、268、271ページを参照してください。

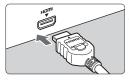
テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

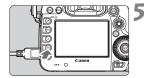
ハイビジョン（HD）テレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、261 ページを参照してください。

〈**HDMI OUT**〉端子と〈**A/V OUT**〉端子から、映像を同時に出力することはできません。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。そのときは、付属のAVケーブルで接続してください。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

1 [HDMI機器制御]を[入]にする

- [▶3]タブの[HDMI 機器制御]を選び、〈SET〉を押します。
- [入]を選び〈SET〉を押します。

2 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。
- ➡ 自動的にテレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に切り換わります。

3 カメラの〈▶〉ボタンを押す

- ➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

4 画像を選ぶ

- リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

5 リモコンの決定ボタンを押す

- ➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。
- ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。
- ［戻る］を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

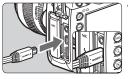
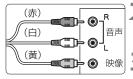
静止画再生メニュー

動画再生メニュー

- ⮌ ：戻る
- ▦ ：9枚インデックス表示
- ：動画再生
- ：スライドショー
- INFO.：撮影情報の切り換え
- ：画像回転

2枚表示のときは（p.253）、テレビのリモコンで再生操作はできません。〈▦・🔍〉ボタンを押して、1枚表示にしてから操作してください。

- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、［▶3：HDMI機器制御］を［切］にして、カメラ側で操作してください。

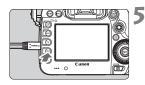
ハイビジョン（HD）非対応のテレビで見る

1 付属のAVケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの背面に向くようにして、〈**A/V OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにAVケーブルを接続する

- AV ケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 動画の再生方法は、261 ページを参照してください。

- 付属のAVケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、[**¥3：ビデオ出力方式**] で方式を切り換えてください。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［画像を選択］を選ぶ

- ［**画像を選択**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

プロテクト表示

3 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像がプロテクトされ、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。

［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

〈RATE〉ボタンで設定する

再生時に〈**RATE**〉ボタンでプロテクトをかけることができます。

- ［**3：RATE ボタンの機能**］を［**プロテクト**］に設定します。

- 画像を再生し、プロテクトする画像を選びます。
- 〈**RATE**〉ボタンを押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈〉が表示されます。
- もう一度〈**RATE**〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈〉が消えます。

カードを初期化すると（p.53）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.278）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

コピーする

カード内に記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

MENU 画像を1枚ずつ選んでコピーする

1 ［画像コピー］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像コピー**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［画像選択］を選ぶ

- コピー元と、コピー先の空き容量を確認します。
- 〈◎〉を回して［**画像選択**］を選び、〈SET〉を押します。

3 フォルダを選ぶ

- 〈◎〉を回してコピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

➡ 選択したフォルダ内の画像が表示されます。

コピー元は、［1：**記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］（［**再生**］）で選択されているカードです。

総指定枚数

4 コピーする画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してコピーする画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面左上に〈✓〉が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して、〈⚙〉を左に回していくと、3 画面表示になります。〈⚙〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5 〈RATE〉ボタンを押す

- 画像を選び終わったら、〈**RATE**〉ボタンを押します。

6 [OK] を選ぶ

- コピー先のカードを確認し、〈SET〉を押します。

7 コピー先のフォルダを選ぶ

- 〈◎〉を回して画像をコピー保存するフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- [**フォルダ作成**] を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。

8 [OK] を選ぶ

- コピー元とコピー先の情報を確認します。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ コピーが始まり、コピー状況が表示されます。
- コピーが終了すると、結果が表示されます。
- ［OK］を選ぶと、手順2の画面に戻ります。

MENU フォルダ内/カード内全画像をコピーする

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。［▶1：画像コピー］で［■選択］または［全画像］を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。

- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- ［画像選択］のときに、複数フォルダ内の画像を、同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- コピー先のフォルダ／カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、［スキップしてコピー］［上書きコピー］［コピー中止］が表示されます。コピー方法を選んで〈SET〉を押します。
  - ・［スキップしてコピー］：画像番号が重複する画像だけコピーされません
  - ・［上書きコピー］：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）

  なお、印刷指定（p.305）されている画像に対して、上書きコピーを行ったときは、再度指定してください。
- 印刷指定情報、画像転送情報はコピーされません。
- コピー実行中は撮影できません。［キャンセル］を選んでから、撮影してください。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.272）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

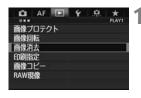
➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● 〈◎〉を回して［**消去**］を選び、〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

［.♀.3：**画像消去の初期設定**］を［［**消去**］**を選択**］に設定すると、画像を素早く消去することができます（p.320）。

MENU チェック〈✓〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 [選択して消去] を選ぶ

- [選択して消去] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して、〈ダイヤル〉を左に回していくと、3 画像表示になります。〈ダイヤル〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

- 〈消去〉ボタンを押します。
- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。[▶1：画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

- プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.53）。
- [カード内・全画像] を選んだときに画像を消去するカードは、[1：記録機能とカード・フォルダ選択] の [記録・再生]（[再生]）で選択されているカードです。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターは、見やすい明るさに自動調整されます。なお、自動調整時の明るさ（明るめ/暗め）を設定したり、手動で明るさを調整することもできます。

1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- [¥2] タブの [液晶の明るさ] を選び、〈SET〉を押します。

2 [自動] または [手動] を選ぶ

- 〈◎〉を回して選びます。

3 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈SET〉を押します。
- [自動] は3段階、[手動] は7段階に調整することができます。

自動調整

手動調整

[自動] のときは、液晶モニターの下側にある丸い部分（外光センサー／p.20）を指などでふさがないようにしてください。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.248）で確認することをおすすめします。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 [縦位置画像回転表示] を選ぶ

- [1] タブの [**縦位置画像回転表示**] を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。

- **する**
  カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **する**
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **しない**
  自動回転させたくないとき

[**しない**] で撮影した画像は、[**する**] に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

10

撮影した画像を加工する

RAW画像をカメラで現像したり、JPEG画像をリサイズ（画素数を少なく）することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
  * 〈A+〉モードでは使用できない機能です。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- HDR 撮影、多重露出撮影を設定しているときや、カメラとパソコンを〈**DIGITAL**〉端子で接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW/JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま、何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、M RAW、S RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で現像処理を行ってください。

1 [RAW現像] を選ぶ

- [▶1] タブの [RAW現像] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈ダイヤル〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 現像処理を行う

- 〈SET〉を押してしばらくすると、現像処理の項目が表示されます（p.284 ～ 286）。
- 〈✣〉で項目を選び、〈◎〉を回すと、内容が切り換わります。
- ➡ 「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その内容が反映された画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

設定画面表示について

- 〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、手順3の画面に戻ります。

4 保存する

- ［保存アイコン］（保存）を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2〜4を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

拡大表示について

手順3で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、［**RAW現像**］で設定している［**記録画質**］の画素数によって異なります。〈✣〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

ライブビュー撮影のアスペクト比で、［4:3］［16:9］［1:1］で撮影した画像は、設定したアスペクト比の画像が表示されます。また、JPEG画像も設定したアスペクト比で保存されます。

現像処理の項目について

● 明るさ補正
1/3段ステップで、±1段の明るさ補正を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ホワイトバランス**（p.137）
ホワイトバランスを選ぶことができます。[K]を選んだときは、設定画面で〈ダイヤル〉を回して色温度数値を設定します。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ピクチャースタイル**（p.129）
ピクチャースタイルの種類を選ぶことができます。シャープネスなどの設定を行うときは、〈SET〉を押して設定画面を表示します。〈ダイヤル〉を回してスタイルを選びます。〈サブダイヤル〉を回して調整する項目を選び、〈ダイヤル〉を回して内容を設定します。〈SET〉を押すと設定が保存され、手順3の画面に戻ります。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **オートライティングオプティマイザ**（p.142）
オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● NR **高感度撮影時のノイズ低減**（p.143）
ノイズ低減の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。

● L **記録画質**（p.119）
JPEG画像に変換する際の、記録画質を設定します。表示される［***M ****x****］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画素数は、288ページの表を参照してください。

● sRGB **色空間**（p.158）

　sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● OFF **周辺光量補正**（p.147）

　［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で画面の四隅を確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行う周辺光量補正よりも、控えめに補正されるため、補正効果が確認できないことがあります。そのときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF **歪曲補正**

　［**する**］を選ぶと、レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。

　解像感が少し低下することがありますので、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

［**歪曲補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報（p.247）、およびダストデリートデータ（p.291）は画像に付加されません。

● 色収差補正

［**する**］を選ぶと、レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈Q〉ボタンを押して拡大表示で確認します（もう一度〈Q〉ボタンを押すと元に戻ります）。

周辺光量補正と歪曲補正、色収差補正について

周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正を行うには、撮影時に使用したレンズのデータがカメラに登録されている必要があります。登録されていないときは、付属ソフトウェアのEOS Utility (p.394) を使用して、レンズデータの登録を行ってください。

カメラで行うRAW現像の結果と、Digital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。

リサイズ

撮影した画像の画素数を少なくするリサイズ処理を行い、別画像として保存することができます。なお、リサイズ処理は、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズ処理を行うことはできません。**

1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**リサイズ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

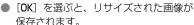
2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してリサイズ処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈⚙〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- 〈◎〉を回してリサイズする画像サイズを選び、〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズ処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

撮影時の記録画質と、リサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○

画像サイズについて

前ページの手順3で表示される［**M **** x ****］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。

なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と画素数			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3840×2560（980万）	3408×2560*（870万）	3840×2160（830万）	2560×2560（660万）
S1	2880×1920（550万）	2560×1920（490万）	2880×1624*（470万）	1920×1920（370万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×400*（29万）	480×480（23万）

11

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く､セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

　撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- ［**今すぐクリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［3］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- ● 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- ● 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- ● データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）による自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.396）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

- ［**手作業でクリーニング**］を選び〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

電源には、ACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

12

画像の印刷とパソコンへの転送

● **印刷**（p.298）

　カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.305）

　カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

● **パソコンに画像を送る**（p.309）

　カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

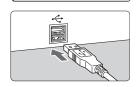
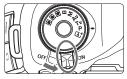
カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈•⇠〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.304）。
- HDRモード設定時は印刷できません。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約4時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面が表示されます。

印刷設定画面

- 印刷効果を設定します（p.300）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します（p.303）
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します
- 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面が表示されます。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面が表示されます。

用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面が表示されます。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*1を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置**	20画像または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*2。 ・［**20面配置 i**］では、撮影情報*1を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

*1：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

*2：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.305）で印刷指定を行ったあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.308）で印刷することをおすすめします。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 印刷効果を選び〈(SET)〉を押します。
- 〈INFO.〉横の〈⊟〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.302）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なることがあるため、目安としてとらえてください。302ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

ISO感度H1、H2で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、〈〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、1枚ずつ印刷されます（印刷枚数は指定できません）。また、トリミングの設定（p.303）は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.303）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- ［**4：カメラ設定初期化**］（p.56）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

印刷効果　ナチュラルM
明るさ補正
レベル補正　切
明るく補正　切
赤目補正　切

300ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が明るく表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。BはブルーAはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈 〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈 〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転することができます。回転を行うと、画面上の〈 〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。
- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、[**続行**]を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

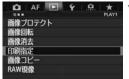
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［印刷タイプ］

［日付］

［画像番号］

項目	設定	内容
印刷タイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切	
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切	

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

RAW画像と動画は印刷指定できません。RAW画像は、PictBridge (p.296) で印刷することができます。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

指定枚数
総指定枚数

チェックマーク
インデックスマーク

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈ダイヤル〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈ダイヤル〉を右に回すと、元の表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード] [両方]

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

[インデックス]

〈SET〉を押して〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● ■指定

[**フォルダ内の全画像を指定**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**フォルダ内の全画像指定を解除**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

[**カード内の全画像を指定**] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**カード内の全画像指定を解除**] を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ■指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

● 296ページを参照してください。
『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶1] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

● [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.298）

● 印刷効果（p.300）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

● 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
● プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
● [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
● 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

● [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
● 印刷を中止したあと、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
● 印刷中に問題が発生したときは、304ページを参照してください。

パソコンに画像を送る

カメラとパソコンをつないで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能をダイレクト画像転送といいます。

画像転送の操作は、カメラの液晶モニターに表示される画面を見ながら、カメラ側で行います。

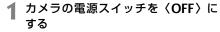
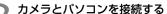
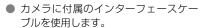
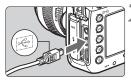
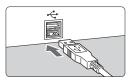
パソコンに送られた画像は、[**ピクチャ**]または[**マイピクチャ**]フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

カメラとパソコンを接続する前に、付属のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。付属ソフトウェアのインストール方法は、395ページを参照してください。

画像転送の準備

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。

- カメラ側を接続するときはプラグの〈⭠〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

● パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、[EOS Utility] を選びます。

⇒ パソコンにEOS Utilityの画面が表示されます。

EOS Utilityの画面が表示されたあと、EOS Utilityを操作しないでください。
EOS Utilityの先頭画面以外が表示された状態では、312ページの手順5で [ダイレクト転送] が表示されません（パソコンへの画像転送ができません）。

● EOS Utilityの画面が表示されないときは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.396）を参照してください。
● ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。

MENU RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき

RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。次ページの手順2で [RAW+JPEG転送] を選び、[JPEGのみ] [RAWのみ] [RAW+JPEG] から選びます。

MENU 転送する画像を選択する

● 画像選択

1 [画像転送] を選ぶ

● [▶2] タブの [**画像転送**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [画像選択/転送] を選ぶ

● [**画像選択/転送**] を選び〈SET〉を押します。

3 [画像選択] を選ぶ

● [**画像選択**] を選び〈SET〉を押します。

4 転送する画像を選ぶ

● 〈◎〉を回して転送する画像を選び、〈SET〉を押します。

● 〈◎〉を回して画面の左上に〈✓〉を表示させ、〈SET〉を押します。

● 〈Q〉ボタンを押して、〈☼〉を左に回していくと、3 画像表示になります。〈☼〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

● 他に転送したい画像があるときは、手順4を繰り返します。

● 〈MENU〉ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。

● [**画像選択**] を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。

● 310ページの [**RAW+JPEG転送**]、および手順1～4の操作は、カメラとパソコンが接続されていない状態でも行うことができます。

5 画像を転送する

- パソコンの画面にEOS Utilityの先頭画面が表示されていることを確認します。
- ［**ダイレクト転送**］を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、画像がパソコンに転送されます。
- ［**■ 選択**］［**全画像**］で選択した画像も、この操作で転送します。

● **■選択**

［**■選択**］を選び、［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選びます。フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

［**フォルダ内の転送失敗画像を選択**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

［**フォルダ内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

● **全画像**

［**全画像**］を選び、［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、カードに記録されている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

［**カード内の転送失敗画像を選択**］［**カード内の転送履歴をクリア**］の内容は、「**■選択**」を参考にしてください。

- パソコンの画面にEOS Utilityの先頭画面以外が表示されているときは、［**ダイレクト転送**］は表示されません。
- 画像転送中は、操作できないメニュー項目があります。

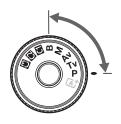
- 動画を転送することもできます。
- 一度に9999画像まで転送することができます。
- 画像転送中も、撮影を行うことができます。

13

カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉〈C2〉〈C3〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**モードで設定、機能します。

MENU カスタム機能一覧 応用

.1：Exposure（露出）

		LV撮影	動画撮影
露出設定ステップ	p.315	○	○
ISO感度設定ステップ		○	M時
ブラケティング自動解除		○	（静止画：WB-BKT時）
ブラケティング順序	p.316	○	
ブラケティング時の撮影枚数		○	
セイフティシフト	p.317	○	

.2：Disp./Operation（表示・操作）

ファインダー内警告の項目	p.318		
ライブビュー撮影範囲表示		○	
Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.319	○	○
マルチ電子ロック		○	○
操作ボタンカスタマイズ		設定により異なる	

.3：Others（その他）

トリミング情報の付加	p.320	○	
画像消去の初期設定		（再生時）	

.4：Clear（解除）

［.4：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

- が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。
- カスタム機能の一括解除を行っても、［.2：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

撮影スタイルに応じて、[ ]タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1：Exposure（露出）

露出設定ステップ

1/3：1/3段

1/2：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

［1/2段］設定時は、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

ISO感度設定ステップ

1/3：1/3段

1/1：1段

ブラケティング自動解除

ON：する

電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

OFF：しない

電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります。（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています。）

ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0−+：0→−→+

−0+：−→0→+

+0−：+→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
＋ ：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数

AEB、およびWBブラケティング時の撮影枚数を通常の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

［**ブラケティング順序：0→−→+**］設定時は、下表のように撮影されます。

3： 3枚

2： 2枚

5： 5枚

7： 7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	＋1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	＋1	＋2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	＋1	＋2	＋3

［**2 枚**］設定時は、AEB レベルを設定するときに補正方向（＋または−）を選ぶことができます。

セイフティシフト

OFF：しない

Tv/Av：Tv値/Av値

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

ISO：ISO感度

プログラムAE（**P**）、シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

- ［**2：ISO感度に関する設定**］で、［**ISO感度設定範囲**］［**ISOオート低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限/上限感度は、［**ISOオートの範囲**］の設定によります（p.127）。ただし、手動設定されているISO感度が［**ISOオートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ［**Tv値/Av値**］［**ISO感度**］設定時は、ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトします。

C.Fn2：Disp./Operation（表示・操作）

ファインダー内❗警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内の右下に〈❗〉を表示することができます（p.23）。

警告表示を行う対象を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けて、[OK] を選びます。

モノクロ設定時

ピクチャースタイルが［**モノクロ**］（p.131）に設定されているときに、警告表示を行います。

ホワイトバランス補正時

ホワイトバランス補正（p.140）が設定されているときに、警告表示を行います。

ワンタッチ記録画質切り換え時

ワンタッチ記録画質切り換え機能（p.328）で、記録画質が変更されているときに、警告表示を行います。

拡張ISO感度時

ISO感度が、L（50）、H1（51200）、H2（102400）に手動設定されているときに（p.125）、警告表示を行います。

スポット測光設定時

測光モードが［**スポット測光**］（p.168）に設定されているときに、警告表示を行います。

ライブビュー撮影範囲表示

ライブビュー撮影でアスペクト比を、[4：3]［16：9］［1：1］に設定したときの（p.204）、撮影範囲の表示方法を設定することができます。

マスクで表示

線で表示

Tv/Av値設定時のダイヤル回転

通常

設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転することができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈〉〈〉、それ以外の撮影モードでは〈〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時と露出補正時の〈〉の設定方向が同じになります。

マルチ電子ロック

〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、〈〉〈〉〈〉による不用意な設定の変更を防止することができます。

ロックしたときに操作を禁止する部材を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けて、[OK] を選びます。

メイン電子ダイヤル

サブ電子ダイヤル

マルチコントローラー

- ロックした状態で禁止した部材を操作すると、ファインダー内と表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.48）の画面に〈**LOCK**〉が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは、〈〉がロックされます。
- 〈〉に〈✓〉を付けてロックしても、〈〉（十字タッチパッド）による操作はロックされません。

操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは、321ページを参照してください。

C.Fn3：Others（その他）

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、ライブビュー撮影時に、設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。

撮影を行うと、付属ソフトウェアでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

パソコンに画像を取り込み、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.394）を使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

OFF：しない
6:6 ：比率6：6
3:4 ：比率3：4
4:5 ：比率4：5（六切）
6:7：比率6：7
5:6：比率5：6（四切）
5:7：比率5：7

- ［**4：アスペクト比**］が［**3：2**］以外に設定されているときは、トリミング情報を画像に付加することはできません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像を、カメラのRAW現像機能でトリミングすることはできません。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈消去〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（p.277）、そのときに［**キャンセル**］と［**消去**］のどちらが選択されているかを設定することができます。

［**消去**］に設定したときは、〈SET〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

 ［キャンセル］を選択

［消去］を選択

［**消去**］に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

.♀.2: 操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

1 [.♀.2：操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- [.♀.2] タブの [操作ボタンカスタマイズ] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 操作部材の選択画面が表示されます。

2 操作部材を選ぶ

- 〈◎〉を回して操作部材を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。

3 機能を割り当てる

- 〈◎〉を回して機能を選び、〈(SET)〉を押します。
- 画面左下に [INFO.] マークが表示される機能は、〈INFO.〉ボタンを押すと、さらに関連項目の設定を行うことができます (p.324～330)。表示される画面で項目を選び、〈(SET)〉を押します。

4 設定を終了する

- 〈(SET)〉を押して設定が終了すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。なお、[.♀.2：操作ボタンカスタマイズ] の設定は、[.♀.4：カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能			参照頁		AF-ON	
AF	AF	測光・AF開始	324	○	○*1	○*1
	AF-OFF	AF停止	325		○	○
	AF⇔	登録AF機能に切り換え				
	ONE SHOT AI SERVO⇔	ワンショット⇄AIサーボ				
	HP	登録AFフレームに移動	326			
		AFフレームダイレクト選択				
露出		測光開始	326	○		
		AEロック			○	○
		AEロック（押している間）		○		
	H	AEロック（ホールド）			○	○
	FEL	FEロック	327		○	○
	ISO	ISO感度設定（押しながら）				
	ISO	ISO感度設定（測光中）				
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更				
画像	RAW JPEG	ワンタッチ記録画質切換	328			
	RAW JPEG H	ワンタッチ記録画質切換（ホールド）				
		記録画質選択				
		ピクチャースタイル選択				
操作		絞り込み	329			
		手ブレ補正機能作動				
		ファインダー内水準器表示				
	MENU	メニュー表示	330			
		画像の再生				
		拡大/縮小（SETボタン+）				
	OFF	無効			○	○

	LENS*	M-Fn	SET			
	○					
○	○					
○*2	○*2					
○	○					
○*3	○*3					
					○	○*4
○	○	○				
○	○	○				
○		○				
			○			
					○	
				○	○	
				○	○	
○*5		○*5				
○*5		○*5				
			○			
			○			
○						
○	○					
○		○				
			○			
			○			
			○			
○			○			○

* AF ストップボタン（LENS）は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

◎AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

*1：〈AF-ON〉ボタンと〈✱〉ボタンでは、［**測光・AF開始**］機能を割り当てるときに、登録AFフレームへの切り換え機能を付加すると、登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。この機能を有効にするためには、321ページの手順3で〈**INFO.**〉ボタンを押し、［**AF開始位置**］の選択画面で［**登録AFフレーム**］を選びます。

● AFフレームの登録方法と使用方法

① 測距エリア選択モードを、スポット1点AF/1点AF/領域拡大AF（任意選択）/領域拡大AF（任意選択周囲）/61点自動選択AFの中から選びます（ゾーンAFは登録できません）。

② AFフレームを任意選択します（p.74）。

③〈⊞〉ボタンを押しながら〈☼〉ボタンを押すと、“ピッ”という音がしてAFフレームが登録されます。測距エリア選択モードが、61点自動選択AF以外のときは、登録したAFフレームが点滅します。
［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定**］に設定しているときは、縦位置撮影（グリップ上/下）、横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。

④ この機能を割り当てた〈AF-ON〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、登録したときの測距エリア選択モード、任意選択したAFフレームに切り換わります。
なお、登録したAFフレームを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押しながら〈ISO・☒〉ボタンを押します。［**¥4：カメラ設定初期化**］を選んだときも、登録したAFフレームが解除されます。

- AFフレーム登録時に、表示される内容は、次の通りです。
  ・61点自動選択AF：**[ ] HP**
  ・スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL HP**（中央以外）
- **SEL [ ]**、**SEL HP**で登録したときは、登録したAFフレームが点滅します。

AF-OFF：AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にピントを固定したいときなどに有効です。

AF⇔：登録AF機能に切り換え

「測距エリア選択モード（p.72）」、「被写体追従特性（p.90）」、「速度変化に対する追従性（p.91）」、「測距点乗り移り特性（p.92）」「AIサーボ1コマ目レリーズ（p.94）」、「サーボAF連続撮影中のレリーズ（p.95）」を設定し、この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、その設定内容でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。

*2：321ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、「登録AF機能に切り換え」の設定画面が表示されます。〈◎〉または〈⚙〉を回して、登録する項目を選び、〈SET〉で〈✓〉を付けます。項目名を選び〈SET〉を押すと、機能の内容を設定することができます。
〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。

ONE SHOT⇔AI SERVO：ワンショット⇄AIサーボ

AFモードを切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

:登録AFフレームに移動

測光タイマー作動中に、この機能を割り当てたボタンを押すと、324ページで登録したAFフレームに移動することができます。

*3:321ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、[押している間だけ切り換え][もう一度押すまで切り換え保持]を選択することができます。

:AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈〉ボタンを押さずに、〈〉または〈〉で直接AFフレームを選択することができます。なお〈〉では、横方向のAFフレームを選択することができます(ゾーンAF時は循環)。

*4:〈〉のときは、321ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の中央押しで[中央AFフレームに移動][登録AFフレームに移動]を選択することができます。

:測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光のみ行います。

:AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます(AEロック)。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

:AEロック(押している間)

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます(AEロック)。

H:AEロック(ホールド)

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます(AEロック)。もう一度、この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

[AEロック(押している間)]をシャッターボタンに割り当てたときは、[AEロック][AEロック(ホールド)]を割り当てたボタンも[AEロック(押している間)]で動作します。

FEL：FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈SET〉を押しながら〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。

ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。ISOオートには設定できません。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

ISO：ISO感度設定（測光中）

測光タイマー作動中に〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。ISOオートには設定できません。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉で絞り数値を設定することができます。

RAW/JPEG：ワンタッチ記録画質切換

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。切り換え中は、表示パネルの記録画質が点滅します。撮影が終了すると、切り換えが自動解除され、元の記録画質に戻ります。

*5：321ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を選択することができます。

RAW/JPEG H：ワンタッチ記録画質切換（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。切り換え中は、表示パネルの記録画質が点滅します。撮影を行っても、切り換えは自動解除されません。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すと、元の記録画質に戻ります。

*5：321ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を選択することができます。

：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.119）が表示されます。

：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.129）が表示されます。

ワンタッチ記録画質切り換え中に、ファインダー内に〈(!)〉を表示することができます（p.318）。

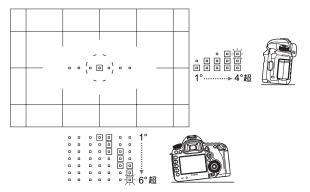
: 絞り込み

絞り込みボタンを押すと、絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.165）。

: 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、この機能を割り当てたボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

: ファインダー内水準器表示

この機能を割り当てたボタンを押すと、ファインダー内にグリッドと、AFフレームを利用した水準器が表示されます。

MENU：メニュー表示

〈SET〉を押すと、液晶モニターにメニューが表示されます。

▶：画像の再生

〈SET〉を押すと、画像を再生することができます。

Q：拡大/縮小（SETボタン+ダイヤル）

〈SET〉を押すと、カードに記録されている画像を拡大表示することができます。操作方法は251ページを参照してください。また、ライブビュー撮影、動画撮影時のライブモード、クイックモード、手動ピント合わせのときも、映像を拡大表示することができます（p.210、214）。

OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

● [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [マイメニューへの登録] を選ぶ

● [**マイメニューへの登録**] を選び〈SET〉を押します。

3 登録する

● 項目を選び〈SET〉を押します。
● 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
● 6項目まで登録できます。
● 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

● **並べ替え**

登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[⬍] が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

● **選択して削除／全項目削除**

登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

● **マイメニューから表示**

[**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

C1 カスタム撮影モードの登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、モードダイヤルの〈C1〉〈C2〉〈C3〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。

1 ［カスタム撮影モード（C1-C3）］を選ぶ

- ［4］タブの［**カスタム撮影モード（C1-C3）**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［登録］を選ぶ

- 〈〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。

3 登録する

- 〈〉を回して登録するカスタム撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの設定内容（p.333、334）がモードダイヤルのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

〈C1〉〈C2〉〈C3〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を反映して登録内容を自動更新することができます。自動更新するときは、手順2で［**登録内容の自動更新**］を［**する**］に設定します。なお、自動更新される設定内容は、333、334ページを参照してください。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

登録される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード＋設定値、ISO感度、AFモード、測距エリア選択モード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

［**1**］記録画質、撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、レンズ光学補正（周辺光量補正、色収差補正）、外部ストロボ制御、ミラーアップ撮影

［**2**］露出補正/AEB設定、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間

［**3**］ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出（設定値）、HDRモード（設定値）

［**4（ライブビュー撮影）**］

ライブビュー撮影、AFモード、グリッド、アスペクト比、露出Simulation、LV静音撮影、測光タイマー

［**4（動画）**］

AFモード、グリッド、動画記録サイズ、録音、LV静音撮影、測光タイマー

［**5（動画）**］

動画記録カウント、動画再生カウント、動画サイレント設定、動画撮影ボタン

［**AF1**］Case 1、Case 2、Case 3、Case 4、Case 5、Case 6

［**AF2**］AIサーボAF1コマ目レリーズ、サーボAF連続撮影中のレリーズ

［**AF3**］USMレンズ電子式手動フォーカス、AF補助光の投光、ワンショットAF時のレリーズ

［**AF4**］AF測距不能時のレンズ動作、任意選択可能なAFフレーム、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定

［AF5］AFフレーム任意選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、ファインダー情報の照明
［▶2］スライドショー、での画像送り
［▶3］ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、動画再生カウント、拡大倍率設定（約）
［¥1］ 画像番号、縦位置画像回転表示、Eye-Fi設定
［¥2］ オートパワーオフ、液晶の明るさ、ファインダー #
［¥3］ センサークリーニング（自動クリーニング）、INFO.ボタンで表示する内容、RATEボタンの機能
［.1］露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、セイフティシフト
［.2］ライブビュー撮影範囲表示、Tv/Av値設定時のダイヤル回転、マルチ電子ロック、操作ボタンカスタマイズ
［.3］トリミング情報の付加、画像消去の初期設定

- マイメニューの設定内容は、登録されません。
- モードダイヤルが〈C1〉〈C2〉〈C3〉のときは、［¥4：**カメラ設定初期化**］と［.4：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］は選択できません。

- モードダイヤルが〈C1〉〈C2〉〈C3〉のときも、撮影機能やメニューなどの設定を変更することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、〈C1〉〈C2〉〈C3〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.336、337）。

14

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

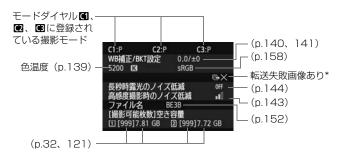
INFO.ボタンの機能

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」と「水準器」(p.60)、「撮影機能の設定状態」(p.337)を表示することができます。

[ꟼ3] タブの [INFO. ボタンで表示する内容] で、〈INFO.〉ボタンを押して表示する項目を選ぶことができます。

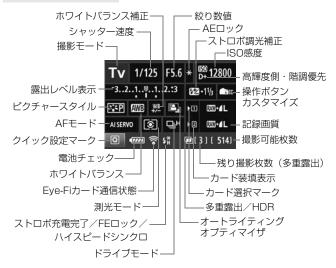
- 使用する項目を選び、〈SET〉を押して〈✓〉を付けます。
- 選択が終わったら [OK] を選び、〈SET〉を押します。

- 3項目すべての〈✓〉を外すことはできません。
- [カメラ設定の内容] のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- [水準器] を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時は、〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器が表示されます。

カメラ設定の内容

* 転送失敗画像があるときに表示されます。

撮影機能の設定状態

ホワイトバランス補正
シャッター速度
撮影モード
絞り数値
AEロック
ストロボ調光補正
ISO感度
高輝度側・階調優先
露出レベル表示
操作ボタン
カスタマイズ
ピクチャースタイル
AFモード
記録画質
クイック設定マーク
撮影可能枚数
電池チェック
残り撮影枚数（多重露出）
ホワイトバランス
カード装填表示
Eye-Fiカード通信状態
カード選択マーク
測光モード
多重露出／HDR
ストロボ充電完了／FEロック／
ハイスピードシンクロ
オートライティング
オプティマイザ
ドライブモード

Tv 1/125 F5.6 ＊ 12800 D+
-3..2..1..0..1..2..3 +1⅓
AWB
AI SERVO
RAW+L
[3] [514]

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.49）。
- 〈ISO・〉〈AF・DRIVE〉〈・WB〉〈〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈〉または〈〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈〉で選択することもできます。

「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を確認することができます。

［バッテリー情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。

電池位置

- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 電池チェック表示（p.35）とともに、残量が1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6のご使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は、静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E11に、バッテリーパック LP-E6を入れたときも、電池情報が表示されます。単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。
- 何らかの原因で電池と通信できない、または通常の通信と異なるときは、［**このバッテリーを使用しますか?**］と表示されますが、［**OK**］を選ぶとそのまま撮影できます。ただし、電池によってはバッテリー情報の画面が表示されなかったり、画面が表示されても、バッテリーの情報が正しく表示されないことがあります。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

2 [登録] を選ぶ

- [登録] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

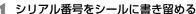
3 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E11に単3形電池を装填しているときや、電源にACアダプターキット ACK-E6を使用しているときは登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、[登録] は選べません。341ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。

2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- BG-E11 使用時は、バッテリーマガジンへの取り付け / 取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号　前回使用日

残容量

シリアル番号を照合する

● 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。

➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 ［情報消去］を選ぶ

● 339ページの手順2で［**情報消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

● 消去する電池を選び〈SET〉を押します。

➡ 〈✓〉が表示されます。

● 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈削除〉ボタンを押す

➡ 確認画面が表示されます。

4 ［OK］を選ぶ

● ［OK］を選び〈SET〉を押します。

➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

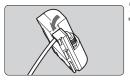
家庭用電源を使用する

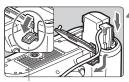
ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード
通し部

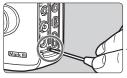
4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

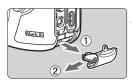
電源スイッチを〈**ON**〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。

日付／時計機能用電池を交換する

日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電源を入れたときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、次の手順で新しいCR1616リチウム電池に交換してください。

日付/時刻/エリアが初期化されますので、必ず再設定してください（p.36）。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

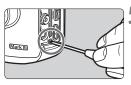
2 電池ホルダーのねじを取り外す

- 小型のプラスドライバーを使用します。
- 取り外したねじは、なくさないように注意してください。

3 電池ホルダーを取り外す

- 電池は②の方向に押し出します。

（－）（＋）

4 電池を入れ換えてホルダーを入れる

- ＋－を正しく合わせて入れます。

5 電池ホルダーのねじを締める

日付/時計機能用電池は、必ずCR1616リチウム電池を使用してください。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

1 Eye-Fiカードを入れる（p.31）

2 ［Eye-Fi設定］を選ぶ

- ［🔧1］タブの［**Eye-Fi設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- 〈SET〉を押し、［**Eye-Fi通信**］の［**する**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**しない**］を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈SET〉を押します。

5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

6 撮影する

➡ 画像が転送され、〈 〉がグレー（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。

- 転送した画像は、撮影情報表示（p.246）の画面に が表示されます。

通信状態マーク

- （グレー）**未接続**：転送先に接続していません。
- （点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
- （点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
- （↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- 「 」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- ［**Eye-Fi通信**］を［**しない**］に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能			静止画						動画	
			A+	P	Tv	Av	M	B	🎥	📷*1
全記録画質の選択			○	○	○	○	○	○		○
ISO感度	自動設定/ISOオート		●	○	○	○	○	○	●M以外 ○M時	
	手動設定			○	○	○	○	○	○M時	
ピクチャースタイル	自動選択		A						A+時：A	
	任意設定			○	○	○	○	○	○	
ホワイトバランス	オート		●	○	○	○	○	○	○	
	プリセット			○	○	○	○	○	○	
	マニュアル			○	○	○	○	○	○	
	色温度指定			○	○	○	○	○	○	
	補正/ブラケティング			○	○	○	○	○		○
オートライティングオプティマイザ			●	○	○	○	○	○	○	
レンズ光学補正	周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○	
	色収差補正		○	○	○	○	○	○	○	
長秒時露光のノイズ低減				○	○	○	○	○		
高感度撮影時のノイズ低減			●	○	○	○	○	○	○	
高輝度側・階調優先				○	○	○	○	○	○	
多重露出撮影				○	○	○	○	○		
HDR撮影				○	○	○	○			
色空間	sRGB		●	○	○	○	○	○	●	○
	Adobe RGB			○	○	○	○	○		○
AF	AFモード	ワンショットAF		○	○	○	○	○	AFLive AF:) AFQuick *2*4	
		AIサーボAF		○	○	○	○	○		
		AIフォーカスAF	●	○	○	○	○	○		
	測距エリア選択モード			○	○	○	○	○	A+以外、AFQuick時	

*1：📷は、動画撮影時の静止画撮影を示しています。

*2：動画撮影中はAFLiveに切り換わります。

機能			静止画						動画	
			A+	P	Tv	Av	M	B	動画	静止画[*1]
AF	AFフレーム選択	自動	●	○	○	○	○	○	A+以外、AFQuick時	
		任意		○	○	○	○	○		
	AF補助光		●	○	○	○	○	○		
	手動ピント合わせ（MF）		○	○	○	○	○	○	○	
	AFカスタム設定ガイド			○	○	○	○	○		
	AFマイクロアジャストメント			○	○	○	○	○	A+以外、AFQuick時	
測光方式	評価測光		●	○	○	○	○	○		
	測光モード選択			○	○	○	○	○		
露出	プログラムシフト			○						
	AEロック[*3]			○	○	○			P, Tv, Av, B時	
	露出補正			○	○	○				
	AEB			○	○	○	○			
	被写界深度確認			○	○	○	○	○		
ドライブ	1枚撮影		○	○	○	○	○	○		○
	高速連続撮影		○	○	○	○	○	○		○
	低速連続撮影		○	○	○	○	○	○		○
	静音1枚撮影		○	○	○	○	○	○		○
	静音連続撮影		○	○	○	○	○	○		○
	セルフタイマー（10秒）		○	○	○	○	○	○		○[*4]
	セルフタイマー2（2秒）		○	○	○	○	○	○		○[*4]
外部ストロボ	FEロック			○	○	○	○	○		
	ストロボ調光補正			○	○	○	○	○		
ライブビュー撮影			○	○	○	○	○	○		
アスペクト比[*5]				○	○	○	○	○		
クイック設定			○	○	○	○	○	○	○	

*3：〈M〉モードでISOオート時は、ISO感度を固定することができます。
*4：動画撮影開始前のみ機能します。
*5：ライブビュー撮影時のみ設定できます。

メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

◘：撮影1（赤）　　参照頁

記録画質	RAW／M RAW／S RAW ◢L／▟L／◢M／▟M／◢S1／▟S1／S2／S3	119
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	55
電子音	入／切	－
カードなしレリーズ	する／しない	32
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない 色収差補正：する／しない	147
外部ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／ストロボ機能設定／ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能設定／ストロボカスタム機能一括解除	191
ミラーアップ撮影	しない／する	184

- ［　］の項目は、〈A+〉モードでは表示されません。
- ［◘1：記録画質］で表示される内容は、［♆1：記録機能とカード・フォルダ選択］の［記録機能］（p.116）の設定により変わります。［振り分け］に設定されているときは、カードごと記録画質を設定します。

：撮影2（赤）

		参照頁
露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±5段（AEB±3段）	169 170
ISO感度に関する設定	ISO感度設定／ISO感度設定範囲／ISOオートの範囲／ISOオート低速限界	124 ~ 128
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め マニュアル露出時はOFF	142
ホワイトバランス	AWB／／／／／／／／K（約2500～10000）	137
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	138
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り各色9段 WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ±3段	140 141
色空間	sRGB／Adobe RGB	158

* 動画撮影時、[**露出補正／AEB設定**]は[**露出補正**]になります。

：撮影3（赤）

ピクチャースタイル	Aオート／Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	129 ~ 136
長秒時露光のノイズ低減	しない／自動／する	144
高感度撮影時のノイズ低減	標準／弱め／強め／しない	143
高輝度側・階調優先	しない／する	146
ダストデリートデータ取得	付属ソフトウェアでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	291
多重露出	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／撮影画像の保存／多重露出撮影の継続	177
HDRモード	Dレンジ調整／仕上がり効果／HDR撮影の継続／画像位置自動調整／撮影画像の保存	173

* 動画撮影時は、[**多重露出**][**HDRモード**]は選択できません（グレー表示になります）。

：撮影4*（赤） 参照頁

ライブビュー撮影	する／しない	203
AFモード	ライブモード／ライブモード／クイックモード	207
グリッド	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	203
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	204
露出Simulation	する／絞り込み中／しない	205
LV静音撮影	モード1／モード2／しない	206
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	206

*〈〉モードでは、[**2**]タブに表示されます。

AF：AF1（紫）

Case 1	汎用性の高い基本的な設定	86
Case 2	障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	86
Case 3	急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	87
Case 4	被写体が急加速/急減速するとき	87
Case 5	被写体の上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）	88
Case 6	被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき（1点AF時無効）	89

AF：AF2（紫）

AIサーボAF1コマ目レリーズ	レリーズ優先／バランス重視／ピント優先	94
サーボAF連続撮影中のレリーズ	撮影速度優先／バランス重視／ピント優先	95

AF：AF3（紫）

参照頁

USMレンズ電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能／ワンショットAF作動後・不可／AF時すべて不可	96
AF補助光の投光	する／しない／赤外光方式の補助光のみ投光	97
ワンショットAF時のレリーズ	レリーズ優先／ピント優先	97

AF：AF4（紫）

AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する／サーチ駆動しない	98
任意選択可能なAFフレーム	61点／クロス測距点のみ／15点／9点	98
測距エリア選択モードの限定	スポット1点AF（任意選択）／1点AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択·:·）／領域拡大AF（任意選択周囲）／ゾーンAF（ゾーン任意選択）／61点自動選択AF	99
測距エリア選択モードの切換	⊞→M-Fnボタン／⊞→メイン電子ダイヤル	100
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ／別々に設定	101

AF：AF5（紫）

AFフレーム任意選択時の循環	しない（端で突き当たり）／する	102
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム（常時表示）／全AFフレーム（常時表示）／選択フレーム（測距前/合焦時）／選択AFフレーム（合焦時表示）／表示しない	102
ファインダー情報の照明	自動／する／しない	103
AFマイクロアジャストメント	しない／全レンズ一律調整／レンズごとに調整	104

▶：再生1（青）

		参照頁
画像プロテクト	画像の保護	272
画像回転	画像の縦横回転	254
画像消去	画像の消去	277
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	305
画像コピー	カード間の画像コピー	274
RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	282

▶：再生2（青）

リサイズ	画素数を少なく処理	287
レーティング	[OFF] ／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	255
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	265
画像転送	パソコンに送信する画像を指定	309
ダイヤルでの画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	250

▶：再生3（青）

ハイライト警告表示	しない／する	247
AFフレーム表示	しない／する	247
再生時のグリッド	表示しない／9分割 ＃／24分割 ▦／9分割+対角 ⋇	245
ヒストグラム	輝度／RGB	248
動画再生カウント*	記録時間／タイムコード	238
拡大倍率設定（約）	1倍（拡大なし）／2倍（中央から）／4倍（中央から）／8倍（中央から）／10倍（中央から）／等倍（任意選択合焦点から）／前回と同じ倍率（中央から）	252
HDMI機器制御	切／入	269

* ［🔴5（動画）］タブの［タイムコード］の［動画再生カウント］と設定が連動します。

：機能設定1（黄）

		参照頁
記録機能とカード・フォルダ選択	[**記録機能**] 標準／カード自動切り換え／振り分け／同一書き込み [**記録・再生**] [**再生**] 1／2 [**フォルダ**] フォルダの作成と選択	116 118 150
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	154
ファイル名の設定	カメラ固有設定／ユーザー設定1／ユーザー設定2	152
縦位置画像回転表示	する／する／しない	280
カード初期化	記録内容を初期化して消去	53
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	344

：機能設定2（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない	55
液晶の明るさ	自動：3段階の明るさ調整 手動：7段階の明るさ調整	279
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	36
言語	表示言語を選択	38
ファインダー	表示しない／表示する	59
GPS機器の設定*	GPSレシーバー GP-E2（別売）装着時に設定可能	–

* [**GPS機器の設定**] が表示されないときは、ファームウェアのアップデートを行ってください。

GPS機器やワイヤレスファイルトランスミッターを使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。

：機能設定3（黄）

		参照頁
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	231 271
バッテリー情報	電源／残容量／撮影回数／劣化度／電池の登録／使用履歴確認	338 〜 341
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	290
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	293
INFO.ボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	336
RATEボタンの機能	レーティング／プロテクト	255 273
通信機器の設定	WFT-E7（別売）装着時に表示	−

：機能設定4（黄）

カスタム撮影モード(C1-C3)	モードダイヤルのC1、C2、C3に現在のカメラ設定を登録	332
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	56
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／ 著作権者名入力／著作権情報の消去	156
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	−

：カスタム機能（橙）

C.Fn1：露出	カメラの機能を細かく設定	315
C.Fn2：表示・操作		318
C.Fn3：その他		320
C.Fn4：解除	カスタム機能をすべて解除	314

★：マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	331

動画撮影時

：撮影4[*1]（動画）（赤）

参照頁

AFモード	ライブモード／ライブモード／クイックモード	239
グリッド	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	239
動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）（ALL-I／IPB） 1280×720（60／50）（ALL-I／IPB） 640×480（30／25）（IPB）	231
録音[*2]	録音：オート／マニュアル／しない	234
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	
LV静音撮影	モード1／モード2／しない	240
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	240

*1：〈A+〉モードでは、［2］タブに表示されます。
*2：〈A+〉モードでは、［録音］：［する／しない］になります。

：撮影5[*1]（動画）（赤）

タイムコード	カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント[*2]／ドロップフレーム	237
動画サイレント設定	有効／無効	236
動画撮影ボタン	START STOP ／／START STOP	240

*1：〈A+〉モードでは、［3］タブに表示されます。
*2：［3］タブの［動画再生カウント］と設定が連動します。

システム図

ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
320EX
430EX II
600EX-RT
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
視度補正レンズEg
アンチフォグ
アイピースEg
アイカップEg
アングル
ファインダーC
ハンドストラップ
E2
主な付属品
ワイドストラップ
EW-EOS5DMKIII
バッテリーパック
LP-E6
バッテリーチャージャー
LC-E6
日付/時計機能用
CR1616
リチウム電池
バッテリーグリップ
BG-E11
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E6
ACアダプター
AC-E6
DCカプラー
DR-E6
ACアダプターキット
ACK-E6
LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E11L
(BG-E11に付属)
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E11A
(BG-E11に付属)

GPSレシーバー
GP-E2
ヘッドフォン
リモート
コントローラー
RC-6
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモート
スイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
外部マイク
EFレンズ
HDMI ケーブル
HTC-100(約2.9m)
ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST(約1.3m)
テレビ／ビデオ
ワイヤレスファイル
トランスミッター
WFT-E7
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
無線LAN
アクセスポイント
インターフェースケーブル
IFC-200U(約1.9m)
無線LANアダプター
Ethernet端子
インターフェースケーブル
IFC-500U(約4.7m)
CFカード
カードリーダー
USBポート
パソコン
Windows 7
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
SD/SDHC/SDXC
メモリーカード
PictBridge対応プリンター
レザーケース EH20-L

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残容量（p.338）が94％以上のときは、充電は行われません。
- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.30）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.30）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.31）。
- 電池を充電してください（p.28）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

● カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

● フル充電した電池を使用してください（p.28）。
● 電池の性能が劣化している可能性があります。［**3：バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.338）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
● 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
・レンズの手ブレ補正機能を使う
・液晶モニターを頻繁に使用する
・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う

電源が勝手に切れる

● オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.55）。
● ［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Sレンズは使用できません（p.39）。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.28）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.31）。
- SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.31）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.31、277）。
- ワンショット AF でピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.44、111）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、33ページ、371ページを参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- 容量が128GBを超えるカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化した128GBを超えるカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.39）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.43、44）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください（p.42）。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.162）、ISO感度を上げる（p.124）、ストロボを使用する（p.188）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

AFフレーム（測距点）が少ない

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A～Hの8グループに分類されます。使用するレンズがどのグループに属しているか確認してください。なお、F～Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります（p.79）。

AFフレームが点滅している

- 〈⊞〉ボタンを押したときに点滅しているAFフレームは、クロス測距ができない横線検出のみに対応した測距点を表しています。点灯しているAFフレームがクロス測距点です（p.74）。
- 登録した位置のAFフレームが点滅しています（p.324）。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AFモードをワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.70）。

連続撮影速度が遅い

- シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、121ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［z3：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～25600（動画撮影時は12800）になります。［**ISO感度設定範囲**］で設定範囲を拡張しても、拡張感度（L,H,H1,H2）は選択できません。［z3：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、ISO100/125/160が設定できるようになります（p.146）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- ［z3：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［z3：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.146）。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- ［z2：**オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください。［**標準/弱め/強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.169）。

多重露出撮影時にライブビュー映像や撮影画像が表示されない

- ［**連続撮影優先**］設定時は、撮影途中に「ライブビュー表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません（p.177）。

多重露出画像が RAW で撮影される

- 記録画質の設定が**M RAW**、**S RAW**のときは、多重露出画像は RAW で記録されます（p.183）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［1：外部ストロボ制御］の［Avモード時のストロボ同調速度］を、［1/200-1/60秒自動］または［1/200秒固定］に設定してください（p.192）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付けられているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［4：LV静音撮影］を［しない］に設定してください（p.206）。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.189）。
- ストロボカスタム機能の［調光方式］が［TTL (自動調光)］に設定されていると、常時フル発光します（p.196）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［1：外部ストロボ制御］の［Avモード時のストロボ同調速度］を［自動］に設定してください（p.192）。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.199）。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🌡〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.215、241）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。圧縮形式が「IPB」のときは、実際の書き込み/読み取り速度がCFカード：10MB/秒以上／SDカード：6MB/秒以上、「ALL-I（I-only）」のときは実際の書き込み/読み取り速度がCFカード：30MB/秒以上／SDカード：20MB/秒以上のカードを使用してください。なお、速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください（p.217）。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈A+/**P**/**Tv**/**Av**/**B**〉のときは、ISO 感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（p.224）。

動画撮影時にISO16000/20000/25600が設定できない

- ［📷2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定範囲］の［上限値］を［25600/H］に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張され、ISO16000/20000/25600が設定できるようになります。ただし、動画撮影時のISO16000/20000/25600は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。

動画撮影にすると、手動設定したISO感度が変わる

- ［ISO 感度設定範囲］の［上限値：25600］設定時に、ISO16000/20000/25600に設定した状態で動画撮影にすると、ISO12800に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。
- ①L（50）、②H1（51200）, H2（102400）設定時に動画撮影にすると、ISO感度が①ISO100、②H（25600）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしても、元の感度には戻りません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

動画撮影中に静止画を撮影すると、動画撮影が終了する

- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、UDMA 転送に対応した CF カードの使用をおすすめします。
- 静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすると、改善することがあります。

タイムコードがずれる

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。タイムコードを利用して動画編集を行うときは、動画撮影中に静止画撮影を行わないことをおすすめします。

操作関連

〈 〉〈 〉〈 〉で設定を変更できない

- 〈LOCK▶〉スイッチを左側（ロック解除）にしてください（p.47）。
- ［2：マルチ電子ロック］の設定内容を確認してください（p.319）。

操作部材の機能が入れ換わっている

- ［2：操作ボタンカスタマイズ］の設定内容を確認してください（p.321）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 〈A+〉モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉にしてください（p.51）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.158）。

ファイル名の4文字目が変化する

● ［¥1：ファイル名の設定］で、カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.152）。

画像番号が0001から始まらない

● 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.154）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

● 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.36）。
● エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.37）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

● 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.301、305）。

[♯♯♯] が表示される

● カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［♯♯♯］と表示されます（p.256）。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

● 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

● 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
● 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定］が表示されない

● ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.344）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

● ［**▶3：ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（p.247）。

画像に赤い枠が表示される

● ［**▶3：AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（p.247）。

画像を消去できない

● プロテクトがかかっている画像は消去できません（p.272）。

動画が再生できない

● パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

● 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販の外部マイクの使用をおすすめします（p.235）。

動画が一瞬止まって見える

● 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.223）。

テレビに画像が表示されない

- 付属のステレオAVケーブルを使用してください（p.271）。
- ステレオAVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.268、271）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.271）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.232）。

カードリーダーでカードを認識できない

- 容量が128GBを超えるカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされるため、カードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードが正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンを付属のインターフェースケーブルで接続し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って画像を取り込んでください（p.394）。

RAW画像が現像できない

- M RAW、S RAW画像はカメラで現像処理を行うことはできません。付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください（p.394）。

画像をリサイズできない

- JPEGのS3とRAW/M RAW/S RAW画像は、カメラでリサイズ処理を行うことはできません（p.287）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

● ［**今すぐクリーニング** ］を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（p.290）。

撮像素子の自動清掃が行われない

● 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります。（p.34）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

● 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.300）。

画像転送関連

パソコンに画像が転送できない

● 付属のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください（p.395）。
● EOS Utilityの先頭画面が表示されていることを確認してください。

エラー表示

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.15、18）
02	カード＊にアクセスできません。カード＊を入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.31、53）
04	カード＊がいっぱいになったため、記録できませんでした。カード＊を交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.31、53、277）
06	センサークリーニングができませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.34）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.30、34）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式……………………………… デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体………………………… CFカード（タイプI準拠、UDMAモード7対応）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード
撮像画面サイズ………………… 約36×24mm
使用レンズ……………………… キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを除く）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の等倍に相当）
レンズマウント………………… キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……………………………… CMOSセンサー
カメラ部有効画素……………… 約2230万画素
アスペクト比…………………… 3：2
ダスト除去機能………………… 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……………… DCF2.0
画像タイプ……………………… JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……………………… L（ラージ）　　　：約2210万（5760×3840）画素
M（ミドル）　　　：約980万（3840×2560）画素
S1（スモール1）：約550万（2880×1920）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　　：約2210万（5760×3840）画素
M-RAW　　　　　：約1050万（3960×2640）画素
S-RAW　　　　　：約550万（2880×1920）画素
記録機能………………………… 標準、カード自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成／選択…………… 可能
ファイル名……………………… カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号………………………… 通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル…………… オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……………… オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応

ノイズ低減 ....長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正......オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先..........可能
レンズ光学補正.................周辺光量補正、色収差補正

■ファインダー

方式...................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率...............................上下/左右とも約100%（アイポイント約21mm時）
倍率...................................約0.71倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント ....約21mm（－1m^{-1}時／接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 ....約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン...固定式
AF作動表示 ....あり
グリッド表示 ....可能
水準器表示 ....水平方向：1°ステップ ±6°
垂直方向：1°ステップ ±4°
* 横位置撮影時
ミラー...............................クイックリターン式
被写界深度確認.................可能

■オートフォーカス

方式...................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点...............................61点（クロス測距点：最大41点）
* 使用レンズにより、測距点数、クロス測距点数が変動する
測距輝度範囲 ....EV －2～18（中央F2.8対応測距点・常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
測距エリア選択モード......スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、61点自動選択AF
AFカスタム設定
ガイド機能 ....Case1～6
AIサーボ特性....................被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性
AF微調整 ....AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光 ....EOS用外部ストロボのAF補助光による

■露出制御

測光方式............................ 63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.2%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約1.5%）
・中央部重点平均測光

測光範囲............................ EV 1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）

露出制御方式..................... プログラムAE（シーンインテリジェントオート、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ

ISO感度............................. シーンインテリジェントオート：ISO 100～12800自動設定
（推奨露光指数） P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO 100～25600任意設定（1/3、1段ステップ）、およびL（50）、H1（51200相当）、H2（102400相当）の感度拡張が可能

ISO感度関連設定............. ISO感度設定範囲、ISOオート範囲、ISOオート低速限界設定可能

露出補正............................ 手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）

AEロック.......................... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる

■HDR撮影

ダイナミックレンジ調整.. 自動、±1、±2、±3

仕上がり効果..................... ナチュラル、絵画調標準、グラフィック調、油彩調、ビンテージ調

画像位置自動調整 .... 可能

■多重露出撮影

撮影方法............................ 機能・操作優先、連続撮影優先

多重枚数............................ 2～9枚

多重露出制御..................... 加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

■シャッター

形式....................................電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度..................1/8000〜30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/200秒

■ドライブ関係

ドライブモード..................1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、静音1枚撮影、静音連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン
連続撮影速度 ....高速連続撮影：最高約6コマ/秒
低速連続撮影：最高約3コマ/秒
静音連続撮影：最高約3コマ/秒
連続撮影可能枚数..............JPEGラージ/ファイン：約65枚（約16270枚）
RAW：約13枚（約18枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約7枚（約7枚）
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
*（　）内の数値は、当社試験基準UDMAモード7対応、128GBカード使用時の枚数

■外部ストロボ

対応ストロボ ....EXシリーズスピードライト
調光方式.............................E-TTL II自動調光
ストロボ調光補正..............1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック...........................可能
シンクロ端子 ....あり
外部ストロボ制御..............可能
* 電波通信ワイヤレスストロボ撮影対応

■ライブビュー撮影機能

アスペクト比切り換え......3：2、4：3、16：9、1：1
フォーカスモード..............ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）、クイックモード（位相差検出方式）、手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大可能）
測距輝度範囲 ....EV 1〜18（コントラスト検出方式時／常温・ISO100）
測光方式.............................撮像素子による評価測光

測光範囲............................EV 0〜20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影............................可能（モード1、2）
グリッド表示.....................3種類

■動画撮影機能

映像記録方式.....................MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式.....................リニアPCM
記録形式............................MOV形式
記録サイズと
フレームレート................1920×1080（Full HD）：30p/25p/24p
1280×720（HD）　　：60p/50p
640×480（SD）　　　：30p/25p
* 30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.976fps、60p：59.94fps、50p：50.00fps
圧縮形式............................ALL-I（I-only）、IPB
ファイルサイズ................1920×1080（30p/25p/24p）/ IPB：約235MB/分
1920×1080（30p/25p/24p）/ ALL-I：約685MB/分
1280×720（60p/50p）/ IPB　　：約205MB/分
1280×720（60p/50p）/ ALL-I　：約610MB/分
640×480（30p/25p）/ IPB　　　：約78MB/分
* 動画撮影に必要なカードの書き込み/ 読み取り速度
CFカード：IPB：10MB/秒以上、ALL-I：30MB/秒以上
SDカード：IPB：6MB/秒以上、ALL-I：20MB/秒以上
フォーカスモード............ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式............................撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲............................EV 0〜20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御............................①自動露出撮影、②シャッター優先AE撮影、③絞り優先AE撮影、④マニュアル露出撮影
* ①②③は露出補正、AEロック可能（シーンインテリジェントオートモードを除く）
露出補正............................1/3段ステップ±3段（静止画±5段）

ISO感度 .... シーンインテリジェントオート, Tv：ISO100～12800自動設定
（推奨露光指数）　P, Av, B：ISO100～12800自動設定、H（25600相当）の感度拡張が可能
M：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、ISO100～12800手動設定（1/3、1段ステップ）、H（16000/20000/25600相当）の感度拡張が可能
タイムコード .... 対応
ドロップフレーム............. 60p/30p対応
録音.................................... 内蔵モノラルマイク、外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能搭載
ヘッドフォン .... ヘッドフォン端子装備
グリッド表示 3種類
静止画................................ 撮影可能

■液晶モニター
形式.................................... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数....... ワイド3.2型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整 .... 自動（暗め/標準/明るめ）、手動（7段階）
水準器表示 .... 可能
メニュー表示言語............. 日本語、英語、簡体字中国語
機能ガイド .... 表示可能

■再生機能
画像表示形式 .... 1枚表示、1枚＋情報表示（簡易情報、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス、2枚表示
ハイライト警告................. ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示............... 可能
グリッド表示 3種類
拡大ズーム倍率................. 約1.5～10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像送り 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転............................ 可能
レーティング .... 可能
動画再生............................ 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵
スライドショー................. 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像プロテクト................. 可能
画像コピー .... 可能

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像........... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正
リサイズ............................ 可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター .... PictBridge対応プリンター
印刷対応画像..................... JPEG画像、RAW画像
印刷指定............................ DPOF バージョン1.1準拠

■画像転送機能

転送対応画像..................... 静止画（JPEG画像、RAW画像、RAW＋JPEG画像）、動画

■カスタマイズ機能

カスタム機能..................... 13種
マイメニュー登録 .... 可能
カスタム撮影モード.......... モードダイヤルのC1/C2/C3に登録
著作権情報......................... 設定/付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子..................... アナログ映像（NTSC、PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント（Hi-Speed USB相当）
ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7、GPSレシーバー GP-E2接続
HDMIミニ出力端子.......... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子.......... Φ3.5mmステレオミニジャック
ヘッドフォン端子 Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子..................... N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン.......... リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード..................... 対応

■電源

使用電池............................バッテリーパックLP-E6、1個
* ACアダプターキットACK-E6使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E11装着時、単3形電池使用可能

電池情報............................残容量、撮影回数、劣化度確認、電池登録可能

撮影可能枚数の目安..........ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約950枚/低温（0℃）約850枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約200枚/低温（0℃）約180枚

動画撮影可能時間.............常温（23℃）約1時間30分
低温（0℃）約1時間20分
* フル充電のバッテリーパックLP-E6使用時

日付/時計機能用電池.......リチウム電池 CR1616、1個

■大きさ・質量

大きさ...............................約152.0（幅）×116.4（高さ）×76.4（奥行）mm

質量...................................約950g（CIPAガイドラインによる）／約860g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度....................0℃～＋40℃

使用可能湿度....................85%以下

■バッテリーパック LP-E6

形式...................................充電式リチウムイオン電池

公称電圧............................DC7.2V

容量................................... 1800mAh

大きさ...............................約38.4（幅）×21.0（高さ）×56.8（奥行）mm

質量...................................約80g

■バッテリーチャージャー LC-E6

充電可能電池.....................バッテリーパック LP-E6
充電時間............................約2時間30分
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.4V/1.2A
使用可能温度.....................+5℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................約69.0（幅）×33.0（高さ）×93.0（奥行）mm
質量....................................約130g

■EF24-105mm F4L IS USM

画角....................................対角線：84°～23°20′
水平：74°～19°20′
垂直：53°～13°
構成枚数............................13群18枚
最小絞り............................F22
最短撮影距離.....................0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.23倍（105mm時）
画界....................................535×345mm～158×106mm（0.45m時）
手ブレ補正機能.................レンズシフト式
フィルター径.....................77mm
レンズキャップ.................E-77U
最大径×長さ.....................83.5×107mm
質量....................................約670g
対応フード........................EW-83H
対応ケース........................LP1219

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

 バッテリーパック LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

15

ソフトウェアスタートガイド

この章では、付属のEOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている、各ソフトウェアの概要と、パソコンへのインストール方法、およびソフトウェア使用説明書（CD-ROM）に収録されているPDFファイルの見かたを説明しています。

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアスタートガイド

イオス デジタル ソリューション ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス ユーティリティー
EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うことができるソフトウェアです。

デジタル フォト プロフェッショナル
Digital Photo Professional

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したまま編集することができます。

イメージブラウザー イーエックス
ImageBrowser EX

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、静止画／MOV動画の閲覧・再生、およびJPEG画像の印刷ができます。また、インターネットに接続して取得できる追加機能もあります。

従来製品に付属していたソフトウェアZoomBrowser EX/ImageBrowserは、このカメラで撮影した静止画ファイル、MOV動画ファイルをサポートしていません（動作対象外）。このカメラに付属のImageBrowser EXを使用してください。

ピクチャー スタイル エディター
Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。インストールが正しく行われません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合でも、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD-ROM）を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［Canon EOS Digital Installer］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- インストール途中に、“Microsoft Silverlight”のインストール画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight”のインストールを行ってください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[(マイ) コンピューター] 内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
ImageBrowser EX	IBXx.x_J_xx	
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。

※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書に記載しているレンズ、アクセサリーは、2012年4月時点のものです。それ以降に発売されたレンズ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J002-001